

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同様もしくは類似した名前のボタンやつまみが本体にある場合は、本体でも同様に操作できます。



このマークは「高温注意（Hot Surface）」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じことがあります。

商標について

本機はドルビー^{*}デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS^{**}（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、

7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、および DTS-HD とシンボルの組み合わせは登録商標です。また DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI[™]) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

iPod、iPod classic、iPod nano、and iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、TM、[®]マークは明記していません。

「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod、又は、iPhone と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

Windows Media は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、Microsoft Corporation が有する特定の知的財産権によって保護されています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、本製品に使われている技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IIS および Thomson から許諾されています。

“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“ブレビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、
“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社
の登録商標です。

POCKET BIT、ポケットビットはソ
ニー株式会社の商標です。

“InstaPrevue™”は、米国およびその
他の国における Silicon Image, Inc.
の商標または登録商標です。

目次

この取扱説明書について	2
同梱品	6
各部の名前と働き	7
はじめに	14
接続	
1 : スピーカーを設置する ...	16
2 : スピーカーを接続する ...	18
3 : テレビを接続する	20
4a : 映像機器を接続する ...	21
4b : オーディオ機器を 接続する	25
5 : アンテナを接続する ...	26
6 : 電源コードを接続する ...	26
本機の準備をする	
本機の電源を入れる	27
Easy Setup (かんたん設定) で本機を設定する	27
オンスクリーン表示 (OSD) の操作方法	30
基本操作	
<input/> ソース機器を 再生する	31
iPod/iPhone を再生する ...	32
USB 機器を再生する	35
チューナーの操作	
FM/AM ラジオを聞く	38
FM/AM ラジオ放送局を プリセットする (プリセットメモリー) ...	39
音響効果を楽しむ	
サウンドフィールドを 選ぶ	40
ナイトモード機能を使う	44
補正タイプを選ぶ	44
イコライザーを調整する	44
ピュアダイレクト機能を 使う	45
サウンドフィールドを 初期設定状態に戻す	45
“プラビアリンク”機能	
“プラビアリンク” 機能とは?	46
“プラビアリンク”の 準備をする	46
ワンタッチプレイ	47
電源オフ連動	48
システムオーディオ コントロール	48
オートジャンル セレクター	49
シーンセレクト	50
オーディオ機器 コントロール	50
テレビリモコンからの メニュー操作	51
その他の操作	
デジタル音声とアナログ音声を 切り換える (INPUT MODE)	51
他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)	52
バイアンプ接続する	54
お買い上げ時の設定に戻す ...	54

設定を調節する

Settings メニューを使う	55
かんたん設定 (Easy Setup)	57
スピーカー設定 (Speaker Settings)	57
音声設定 (Audio Settings)	62
HDMI 設定 (HDMI Settings)	63
入力設定 (Input Settings)	64
システム設定 (System Settings)	65
OSD を使わずに 操作する	65

リモコンを使う

入力切り換え用ボタンの 割り当てを変更する	70
入力切り換え用ボタンを 初期設定に戻す	71

その他

使用上のご注意	72
故障かな?と思ったら	73
保証書とアフター サービス	80
主な仕様	81
索引	83

同梱品

- 取扱説明書（本書）（1）
- 接続・設定ガイド（1）
- 安全のために（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）
- 製品登録のおすすめ（1）
- リモコン（RM-AAU175）（1）
- 単3形マンガン乾電池（2）
- FMアンテナ線（1）



- AMループアンテナ（1）

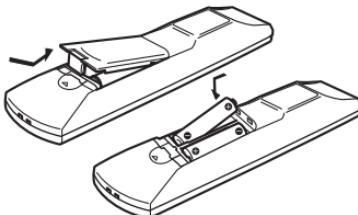


- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）



リモコンに電池を入れる

リモコンに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。乾電池を入れる際には \oplus と \ominus の向きを正しく入れてください。

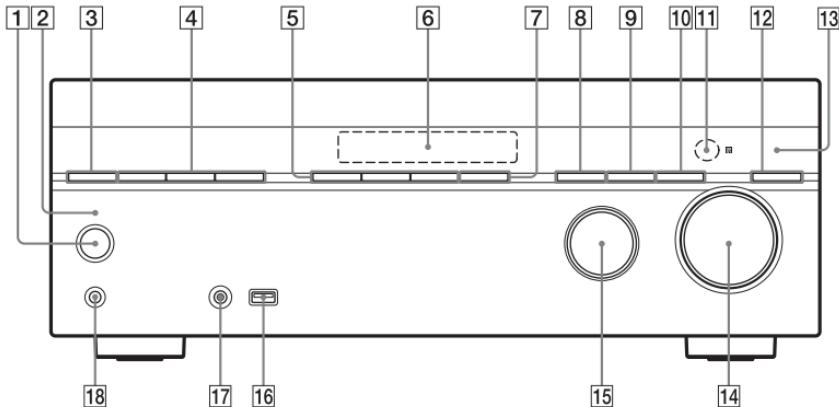


ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンのボタンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、入力切り換え用ボタンを再登録してください（70ページ）。
- リモコンが本機に認識されなくなったら、乾電池をすべて交換してください。

各部の名前と働き

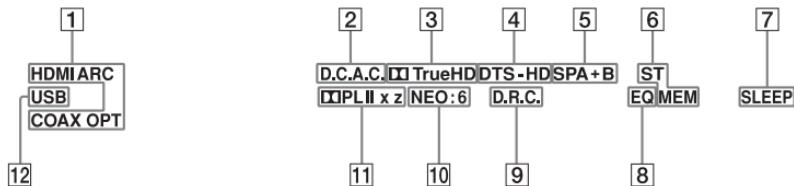
本体前面



- ① I/O (電源オン／スタンバイ) (27、45、54 ページ)**
② I/O (電源オン／スタンバイ) ランプ
下記のように点灯します。
緑：本機の電源が入っている状態
オレンジ色：本機がスタンバイ状態で
- 「Control for HDMI」(63 ページ) が「On」に設定されている場合。
- 「Pass Through」(63 ページ) が「On」または「Auto」に設定されている場合。
本機がスタンバイ状態で
「Control for HDMI」と「Pass Through」が「Off」に設定されているときは、消灯します。
- ③ SPEAKERS (19、29 ページ)**
- ④ TUNING MODE、TUNING +/-**
チューナー (FM/AM) を操作します。
TUNING +/- を押して放送局を選局します。
- ⑤ A.F.D./2CH、MOVIE、MUSIC (31、40 ページ)**

- ⑥ 表示窓 (8 ページ)**
- ⑦ NIGHT MODE (44 ページ)**
- ⑧ INPUT MODE (51 ページ)**
- ⑨ DIMMER**
表示窓の明るさを 3 段階で調整します。
- ⑩ DISPLAY (70 ページ)**
- ⑪ リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。
- ⑫ PURE DIRECT (45 ページ)**
- ⑬ PURE DIRECT ランプ**
ピュアダイレクト機能が働いているときに点灯します。
- ⑭ MASTER VOLUME つまみ (31、61 ページ)**
- ⑮ INPUT SELECTOR つまみ (29、31、51 ページ)**
- ⑯ USB ポート (25 ページ)**
- ⑰ AUTO CAL MIC 端子 (28 ページ)**
- ⑱ PHONES 端子**
ヘッドホンをつなぎます。

表示窓上のインジケーター



① 入力表示

現在本機に入力されている信号を点灯表示します。

HDMI

HDMI IN 端子につないだ機器を本機が認識しています。

ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が検出されています。

COAX

デジタル信号が COAXIAL 端子から入力されています (51 ページ)。

OPT

デジタル信号が OPTICAL 端子から入力されています (51 ページ)。

② D.C.A.C.

自動音場補正機能の測定結果が適用されているときに点灯します。

③ ドルビーデジタルサラウンド表示 *

対応するドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

□ Dolby Digital

□ TrueHD Dolby TrueHD

④ DTS(-HD) 表示 *

対応する DTS フォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS DTS

DTS-HD DTS-HD

⑤ SP A/SP B/SP A+B

スピーカーシステムがオンのときに点灯します。

⑥ チューニング表示

ST

ステレオ放送局を受信すると点灯します。

MEM

プリセットメモリー (39 ページ) などのメモリー機能が働いているときに点灯します。

⑦ SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します (12 ページ)。

⑧ EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

⑨ D.R.C.

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します (63 ページ)。

⑩ NEO:6

DTS Neo:6 Cinema/Music デコーダーが働いているときに点灯します (42 ページ)。

11 ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジック処理をしているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張することができます。

- PL** Dolby Pro Logic
- PL II** Dolby Pro Logic II
- PL IIx** Dolby Pro Logic IIx
- PL IIz** Dolby Pro Logic IIz

ご注意

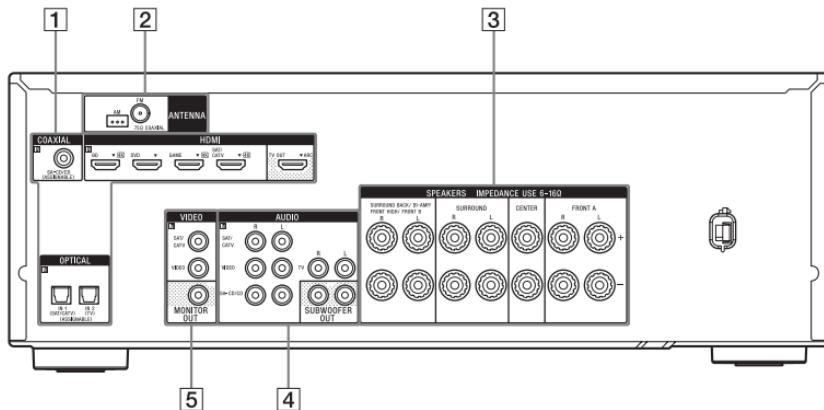
スピーカーパターンの設定によっては、点灯しない場合があります。

12 USB

iPod/iPhone または USB 機器が検出されると点灯します。

- * ドルビーデジタルもしくは DTS フォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、および「INPUT MODE」が「ANALOG」(51 ページ) に設定されていないか、または「Analog Direct」が選択されていないかを確認してください。

本体背面



① デジタル入／出力部

- HDMI 入／出力 * 端子
(20、23 ページ)
- 光デジタル入力端子
(20、24 ページ)
- 同軸デジタル入力端子
(25 ページ)

② チューナー部

- FM アンテナ端子
(26 ページ)
- AM アンテナ端子
(26 ページ)

③ スピーカー出力部 (18 ページ)



④ 音声入／出力部

- AUDIO IN端子
(20、24、25 ページ)
- SUBWOOFER OUT端子
(18 ページ)

⑤ 映像入／出力部 (20、24 ページ)

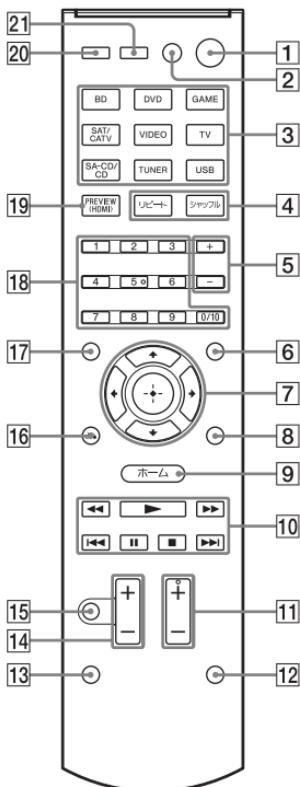
- 映像入／出力 * 端子
端子

* 選んだ入力の映像を見るには、お使いのテレビを HDMI TV OUT 端子または MONITOR OUT 端子につないでください (20 ページ)。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機や他の機器の操作ができます。リモコンのボタンには、ソニー製のオーディオ／映像機器用の操作があらかじめ登録されています。入力切り換え用ボタンを再登録すれば、本機に接続している他の機器を操作することができます（70ページ）。

RM-AAU175



- ① **I/待 (電源オン／スタンバイ)**
本体の電源をオン／スタンバイ状態にします。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

「Control for HDMI」（63ページ）と「Pass Through」（63ページ）を「Off」にします。

- ② **TV I/待¹⁾ (電源オン／スタンバイ)**
テレビの電源をオン／スタンバイ状態にします。

③ 入力切り換え用ボタン

使用する機器を選びます。スタンバイ状態のときに入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。各ボタンはソニー製の機器を操作できるように設定されています。

④ リピート¹⁾

一つのトラックやフォルダーをくり返し再生します。

トップメニュー¹⁾

BD-ROM または DVD のトップメニューを開いたり閉じたりします。

シャッフル¹⁾

一つのトラックやフォルダーをランダムに再生します。

ポップアップ／メニュー¹⁾

BD-ROM のポップアップメニューまたは DVD のメニューを開いたり閉じたりします。

⑤ フォルダー +/-

フォルダーを選びます。

⑥ アンプメニュー

本機を操作するためのメニューを表示します。

⑦ +¹⁾、↑/↓/↔/¹⁾

↑/↓/↔/↔ を押してメニュー項目を選び、+ を押して選択を決定します。

⑧ オプション¹⁾

オプションメニューで項目を表示させて選びます。

⑨ ホーム¹⁾

テレビ画面にホームメニューを表示します。

⑩ ▶◀/▶▶¹⁾、◀◀/▶▶¹⁾、▶¹⁾、■¹⁾、■¹⁾

スキップ、早戻し／早送り、再生、一時停止、停止の操作。

選局 +/-¹⁾

放送局をスキャンします。

ダイレクト選局

ダイレクト選局モードに入ります。

プリセット +/-¹⁾

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。

メモリー

選局操作中に放送局を保存します。

⑪ サウンドフィールド +/-²⁾

サウンドフィールドを選びます(40ページ)。

⑫ PURE DIRECT (45 ページ)

⑬ スリーブ

設定した時間がたつと本機の電源が自動的に切れるように設定します。

スリープボタンを押すたびに表示が次のように切り換わります。

0:30:00 → 1:00:00 → 1:30:00
→ 2:00:00 → OFF

スリープタイマーが働いているときは、表示窓に「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言

本機の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、スリープを押してください。残り時間が表示窓に表示されます。

もう一度スリープを押すと、スリープタイマーが解除されます。

⑭ 音量 +/-

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

⑮ 消音

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

⑯ 戻る ^{5・6)}

メニューもしくはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻ります。

⑰ 画面表示¹⁾

表示窓に情報を表示します。

⑱ 数字ボタン¹⁾²⁾

押して

- プリセットした放送局をプリセット／選局します(39ページ)。
- トランク番号を選びます。10を選択するとときは、0/10を押します。
- チャンネル番号を選びます。

⑲ PREVIEW (HDMI)

HDMI 入力端子に接続した機器の映像をPIP(小窓)画面にプレビュー表示します。一度に最大3つまでのプレビュー画面が表示できます。

PIP(小窓)画面に表示している HDMI 入力をリモコンで選択する事で入力切替ができます。▲/▼をくり返し押してPIP(小窓)画面を選び、⊕を押して選択を決定します。(この機能は、Silicon Image 社の InstaPreview™ の技術を使用しています。)

ご注意

「Preview for HDMI」機能は、HDMI BD、DVD、GAME および SAT/CATV 入力に使えます。

ちょっと一言

• Preview for HDMI 機能は以下の場合、働きません。

- HDMI 機器が接続されていない。
- ある特定の HDMI 機器が、電源が入っていない状態で接続されている。

- サポートしていない HDMI 信号が入力された。(VGA、480i、576i、4K、一部の 3D 信号、ビデオカメラからの信号など)
- HDMI 入力以外の入力が選択されている。
- 「Fast View」が「Off」に設定されている。
- HDMI のプレビュー機能の PIP (小窓) 画面は下記の場合、黒画になります。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(4K、一部の 3D 信号)

iPhone コントロール

iPod/iPhone 使用時に、iPod/iPhone 操作モードに入ります。

20 アンプ

本機の操作ができるようになります。

他のソニー製機器を操作するには

ボタン名	テレビ	ビデオ デッキ	DVD レコーダー/ プレーヤー	ブルーレイ ディスク レコーダー/ プレーヤー	CD プレーヤー
2 TV I/□	●				
4 トップメニュー、リピート		●	●	●	●
ポップアップ／メニュー、 シャッフル		●	●	●	●
7 ↗/↖/↔/↔/、+	●	●	●	●	
8 オプション	●		●	●	
9 ホーム	●	●	●	●	
10 ▶◀/プリセット ←、 ▶▶/プリセット +	●	●	●	●	●
◀◀/選局 ←、 ▶▶/選局 +	●	●	●	●	●
▶、II、■	●	●	●	●	●
16 戻る ◁	●		●	●	
17 画面表示	●	●	●	●	●
18 数字ボタン	●	●	●	●	●
21 TV 入力切換	●				

21 TV 入力切換¹⁾

入力信号 (テレビ入力または映像入力) を選びます。

- 1) それぞれの機器を操作するときに使うボタンについて詳しくは、13 ページの表をご確認してください。
- 2) 5 およびサウンドフィールド + ボタンには、凸点 (突起) が付いています。本機を操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、附属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

はじめに

以下の手順にしたがって簡単に本機につないだオーディオ／映像機器を再生できます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。

**スピーカーを設置／接続する（16、18
ページ）**

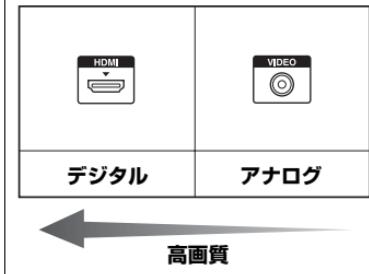


機器に合った接続を確認する

**テレビおよび映像機器を接続する（20、
21 ページ）**

画質は接続する端子によって異なります。下の図を確認してください。お使いの機器の端子に応じて接続方法を選んでください。

お使いの映像機器に HDMI 端子がある場合は、HDMI 端子経由で接続することをおすすめします。



オーディオ機器を接続する（25 ページ）



本機の準備をする

「6：電源コードを接続する」（26 ページ）
および「本機の電源を入れる」
(27 ページ) をご覧ください。



本機を設置する

「Easy Setup（かんたん設定）で本機を
設定する」（27 ページ）をご覧ください。



接続機器の音声出力設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、接続機器のデジタル音声の出力設定を確認してください。

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI 音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2012 年 8 月 1 日現在）

PlayStation®3 の場合は、HDMI ケーブルで本機とつないでから、「サウンド設定」の「音声出力設定」を選び、「HDMI」および「自動」を選んでください（システムソフトウェア 4.21 の場合）。詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書を参照してください。

本機が再生できるデジタル音声フォーマット

本機がデコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。本機は以下の音声フォーマットに対応しています。

音声フォーマット [表示]	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/ OPTICAL	HDMI
Dolby Digital [DOLBY D]	5.1	○	○
Dolby Digital EX [DOLBY D EX]	6.1	○	○
Dolby Digital Plus ^{a)} [DOLBY D +]	7.1	×	○
Dolby TrueHD ^{a)} [DOLBY HD]	7.1	×	○
DTS [DTS]	5.1	○	○
DTS-ES [DTS-ES]	6.1	○	○
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	○	○
DTS-HD High Resolution Audio ^{a)} [DTS-HD HR]	7.1	×	○
DTS-HD Master Audio ^{a)b)} [DTS-HD MA]	7.1	×	○
MPEG-2 AAC (LC)	5.1	○	○
マルチチャンネルリニア PCM ^{a)} [PCM]	7.1	×	○

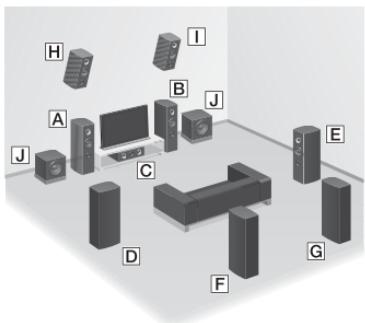
a)再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

b)サンプリング周波数が 96 kHz より大きい信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

1：スピーカーを設置する

本機では、最大 7.2 チャンネルのスピーカーシステム（スピーカー 7 本とアクティブサブウーファー 2 本）を構成できます。

スピーカーシステムの設置例



- A フロントスピーカー（左）
- B フロントスピーカー（右）
- C センタースピーカー
- D サラウンドスピーカー（左）
- E サラウンドスピーカー（右）
- F サラウンドバックスピーカー（左）*
- G サラウンドバックスピーカー（右）*
- H フロントハイスピーカー（左）*
- I フロントハイスピーカー（右）*
- J アクティブサブウーファー

* サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを同時に使用することはできません。

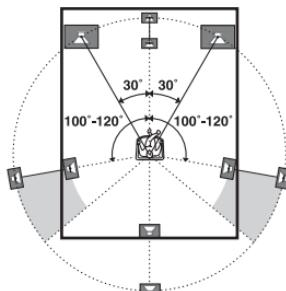
5.1 チャンネルスピーカーシステム

映画館のようなマルチチャンネルのサラウンド音声を充分に楽しむには、5 本のスピーカー（フロントスピーカー 2 本、センタースピーカー 1 本、サラウンドスピーカー 2 本）および 1 本のアクティブサブウーファーが必要です。

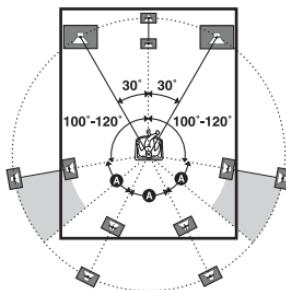
7.1 チャンネルスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカー接続）

DVD やブルーレイディスクソフトウェアに記録された 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルフォーマットの音声を忠実に再現することができます。

- 6.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに配置します。



- 7.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを下の図のように配置します。A の角度が等しくなるように配置します。

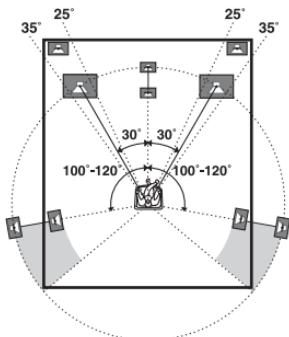


7.1 チャンネルスピーカーシステム(フロントハイスピーカー接続)

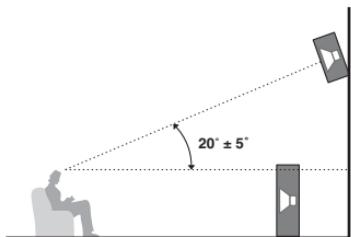
フロントハイスピーカーをさらに2本接続することで、垂直方向のサウンド効果を楽しむことができます。

以下の位置にフロントハイスピーカーを配置します。

-横間隔： $25^{\circ} \sim 35^{\circ}$



-高さ： $20^{\circ} \pm 5^{\circ}$

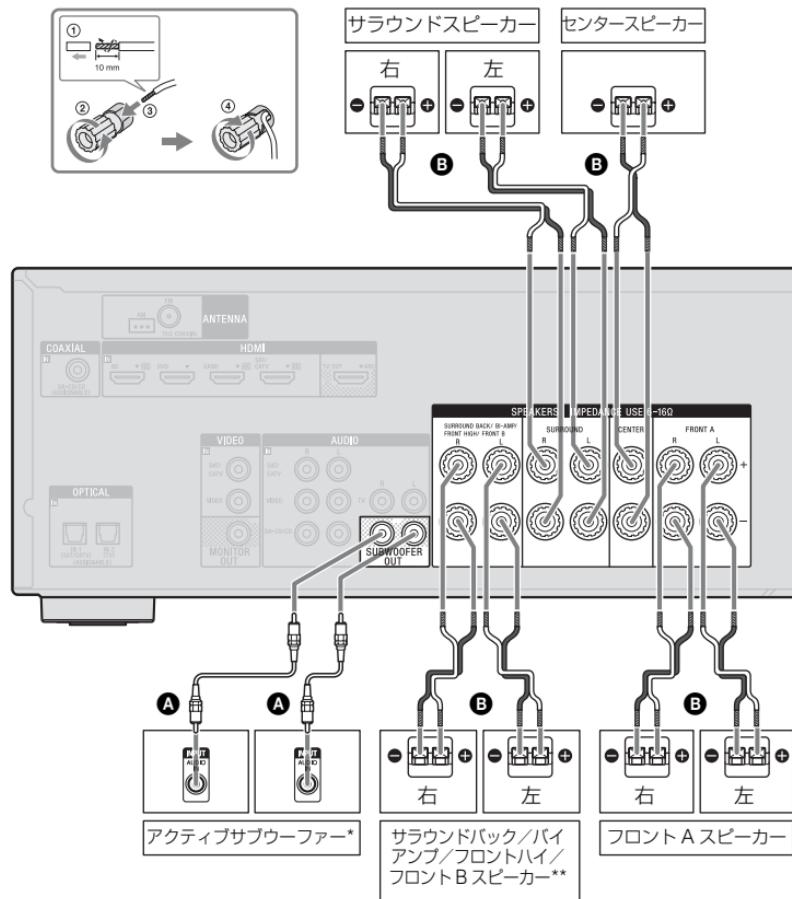


ちょっと一言

アクティブサブウーファーが発する信号には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

2：スピーカーを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



- Ⓐ モノラル音声コード（別売）
Ⓑ スピーカーコード（別売）

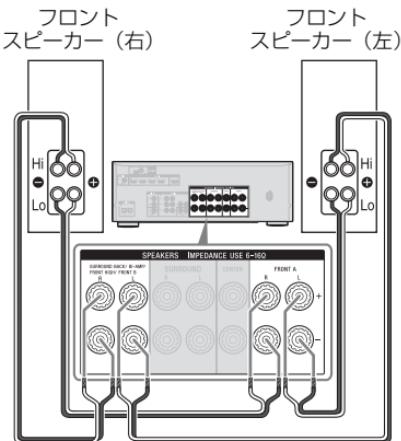
- * オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。
 - ** SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子接続についてご注意
 - サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用するときは、この端子のL側につないでください。
 - フロントスピーカーシステムを追加するときは、この端子につないでください。
- Speaker Settingsメニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定してください(60ページ)。
- 本機のSPEAKERSボタンで、ご希望のフロントスピーカーシステムを選べます(29ページ)。
- バイアンプ接続でこの端子にフロントスピーカーをつなぐことができます(19ページ)。
- Speaker Settingsメニューで「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定してください(60ページ)。

ご注意

スピーカーの設置および接続後は、必ず Speaker Settingsメニューからスピーカーパターンを選んでください(57ページ)。

バイアンプ接続

サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につなぐことができます。



フロントスピーカーのLo(もしくはHi)側の端子をSPEAKERS FRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi(もしくはLo)側の端子をSPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぎます。

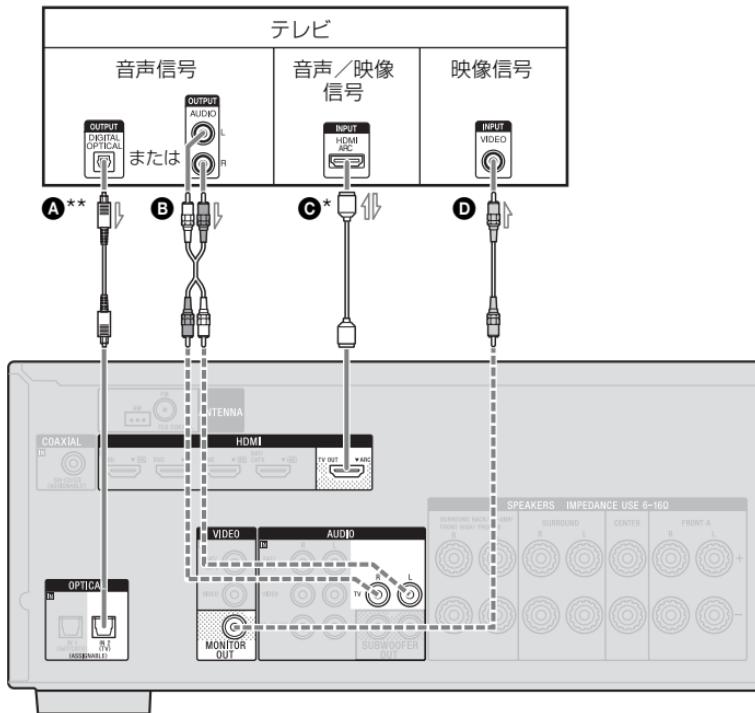
本機の故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ずはずしてください。

バイアンプ接続を設定したら、Speaker Settingsメニューの「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定します(60ページ)。

3：テレビを接続する

HDMI TV OUT 端子や MONITOR OUT 端子をテレビにつなぐと、選んだ入力の映像を見るすることができます。HDMI TV OUT 端子をテレビにつなぐと、OSD（オンスクリーン表示）で本機を操作できます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



Ⓐ 光デジタルコード（別売）

Ⓑ 音声コード（別売）

Ⓒ HDMI ケーブル（別売）

**HDMI 認証ケーブルまたはソニー製
の HDMI ケーブルの使用をおすすめ
します。**

Ⓓ 映像コード（別売）

— 推奨接続

- - - 代替接続

本機からマルチチャンネルサラウンド音声でテレビ放送を楽しむには

- * お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応している場合は、❶をつないでください。
必ずHDMI Settingsメニューで「Control for HDMI」を「On」に設定してください（63ページ）。HDMIケーブル以外のコード（光デジタルコードまたは音声コードなど）を使用して音声信号を選択する場合は、INPUT MODEで音声入力モードを切り換えてください（51ページ）。
- ** お使いのテレビがARC機能に対応していない場合は、❷をつないでください。

必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。

ご注意

- テレビのモニターまたはプロジェクターは、本機のHDMI TV OUTまたはMONITOR OUT端子につないでください。録画機器を接続しても録画できないことがあります。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナを本機からさらに離れたところに設置してください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- テレビの音声出力端子を本機のTV IN端子につないで、テレビの音声を本機につないだスピーカーから出力するときは、テレビの音声出力端子が「Fixed」または「Variable」で切り替え可能な場合は、テレビの音声出力端子を「Fixed」に設定してください。

テレビからの音声を聞くには

お使いのテレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settingsメニューで「HDMI Audio Out」を「TV+AMP」に設定してください（63ページ）。

4a：映像機器を接続する

HDMI接続を使用する

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。

ソニーの「ブラビアリンク」対応機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。「“ブラビアリンク”機能」（46ページ）をご覧ください。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号を本機につないだスピーカーから出力できます。この信号は、ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACに対応しています。詳しくは、「本機が再生できるデジタル音声フォーマット」（15ページ）をご覧ください。
- 本機は、HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- 本機はHigh Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、 Dolby TrueHD)、Deep Color、“x.v.Color”および4Kまたは3D伝送に対応しています。

- 3D 映像を楽しむには、3D に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、PlayStation®3など）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、3D メガネを装着したうえで、3D 対応のコンテンツを再生してください。
- 4K (HDMI BD、GAME および SAT/CATV 入力) 映像を楽しむには、4K に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーなど）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、4K 対応のコンテンツを再生してください。
- HDMI BD、DVD、GAME および SAT/CATV の入力をプレビュー PIP（小窓）画面で見ることが可能です。

HDMI 接続についてのご注意

- スーパーオーディオ CD の DSD 信号は入力／出力されません。
- テレビまたは映像機器によっては、4K または 3D の映像が表示されないことがあります。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

コード類を接続するときは

- 必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。
- すべてのコードをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。スタンダード HDMI ケーブルの場合、1080p、Deep Color、4K または 3D の映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI 変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI 変換ケーブルを DVI-D 機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声コードやデジタル接続コードをつなぎ、Input Settings メニュー（64 ページ）にある「Audio Input Assign」を設定してください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

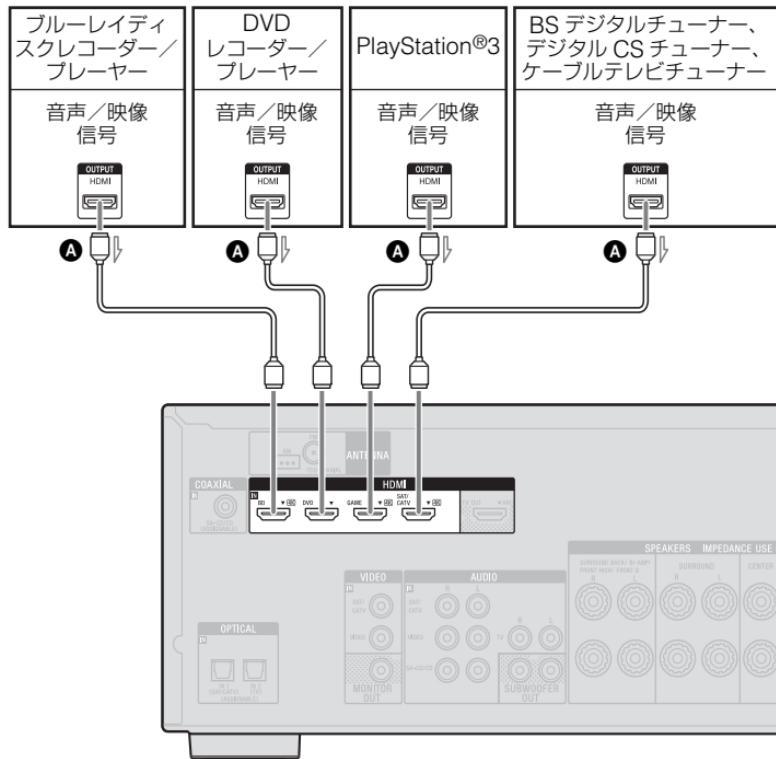
デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の音声入力端子を使う（Audio Input Assign）」（52 ページ）をご覧ください。

HDMI 端子で機器をつなぐ

お使いの機器に HDMI 端子がない場合は、24 ページを参照してください。



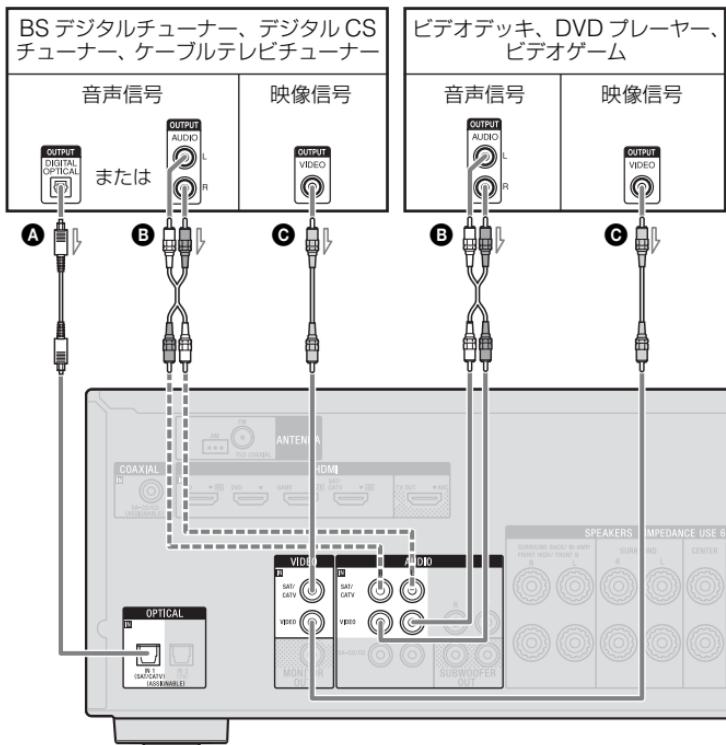
Ⓐ HDMI ケーブル（別売）

**HDMI 認証ケーブルまたはソニー製
の HDMI ケーブルの使用をおすすめ
します。**

ご注意

必ずリモコンの BD および DVD 入力切り
換え用ボタンの初期設定を変更し、お使い
のブルーレイディスクプレーヤーや DVD
プレーヤーをボタンで操作できるようにし
てください。詳しくは、「入力切り換え用ボ
タンの割り当てを変更する」(70 ページ)
をご覧ください。

HDMI 端子以外の端子でつなぐ



A 光デジタルコード（別売）

B 音声コード（別売）

C 映像コード（別売）

— 推奨接続

- - - 代替接続

ご注意

必ずリモコンの VIDEO 入力切り替え用ボタンの初期設定を変更し、お使いの DVD プレーヤーをボタンで操作できるようにしてください。詳しくは、「入力切り替え用ボタンの割り当てを変更する」(70 ページ)をご覧ください。

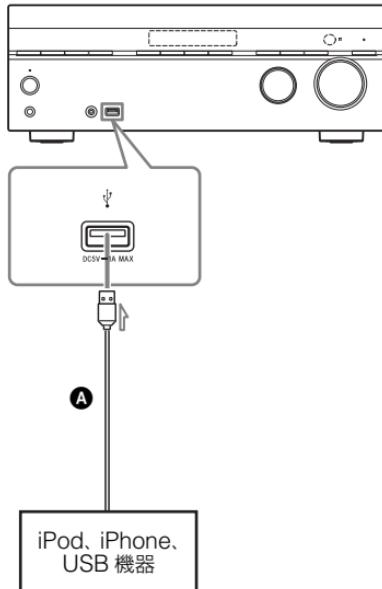
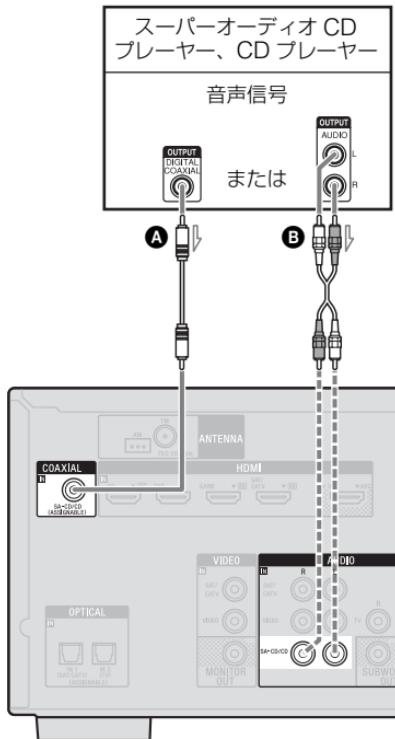
4b：オーディオ機器を接続する

接続

iPod、iPhone、USB 機器
をつなぐ

スーパー・オーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーをつなぐ

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



● USB ケーブル (別売)

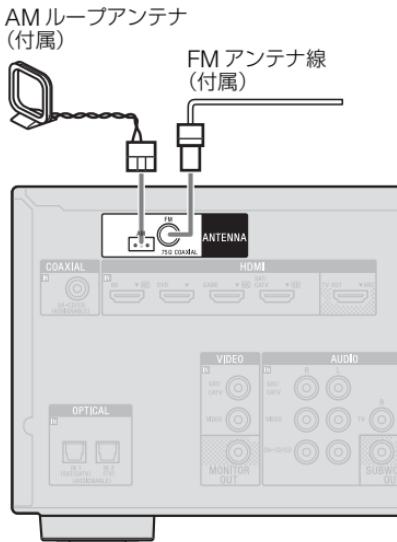
- **A** 同軸デジタルコード (別売)
● **B** 音声コード (別売)

—— 推奨接続

- - - 代替接続

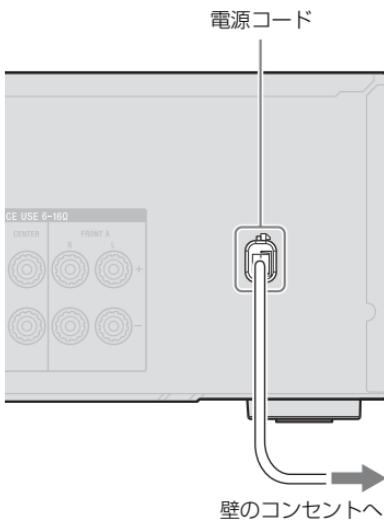
5：アンテナを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナをつないでください。



6：電源コードを接続する

電源コードを壁のコンセントにつなぎます。



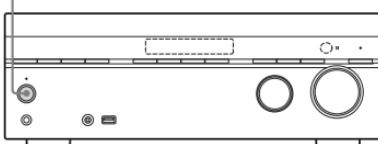
ご注意

- ノイズが入らないよう、AM ループアンテナは本機および他の機器から離して設置してください。
- FM アンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FM アンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

本機の準備をする

本機の電源を入れる

I/O



I/Oを押して本機の電源を入れる。

リモコンのI/Oで本機の電源を入れることもできます。本機の電源を切るときは、もう一度I/Oを押します。表示窓上の「STANDBY」が点滅します。「STANDBY」が点滅しているときは、電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

Easy Setup（かんたん設定）で本機を設定する

テレビ画面の指示にしたがって本機を操作することで、簡単に本機の基本設定ができます。

テレビの入力を本機がつながれている入力に切り替えます。

初めて本機の電源を入れると、または本機を初期化したあとにお使いになるときは、テレビ画面に Easy Setup（かんたん設定）画面が表示されます。Easy Setup（かんたん設定）画面の指示にしたがって本機の設定をしてください。

Easy Setup（かんたん設定）では以下の機能を設定できます。

- Language
- Speaker Settings

Speaker Settingsについてご注意（自動音場補正）

本機には、DCAC（デジタルシネマ自動音場補正）機能が搭載されているため、以下のような自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーと本機の接続の確認
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定*
- スピーカーサイズの測定*
- 周波数特性の測定（EQ）*

* 測定結果は、「Analog Direct」が選ばれているときは使用できません。

DCACは視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。スピーカーのレベルはお好みに合わせて手動で調節できます。詳しくは、「Test Tone」（61 ページ）をご覧ください。

自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。

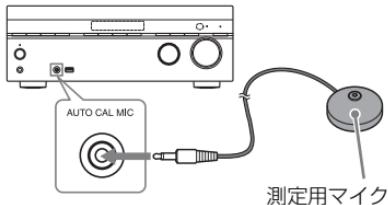
- スピーカーを設定および接続する（16、18 ページ）。
- AUTO CAL MIC 端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には上記以外のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続をしている場合は、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定する（54 ページ）。
- フロント B 接続のスピーカーを使用している場合は、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定する（60 ページ）。
- スピーカー出力が「SPK OFF」に設定されていないことを確認してください（29 ページ）。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。

- 周囲が騒音のない静かな状態であることを確認してから、正確に測定する。

ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

自動音場補正を設定するには



1 AUTO CAL MIC 端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

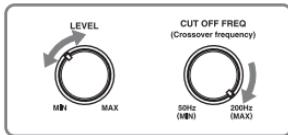
2 測定用マイクを設定する。

視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、事前に電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、LEVEL を中間よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、最大に設定してください。

- オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、オートスタンバイ機能をオフ(無効)にしてください。



ご注意

お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

本機に2本のアクティブサブウーファーをつないでいるときは

環境によって自動音場補正機能の測定結果を正しく得られなかった場合や、微調整をしたい場合は、アクティブサブウーファーを手動で設定できます。詳しくは、Speaker Settingsメニューの「Manual Setup」をご覧ください（60ページ）。

スピーカーインピーダンスについてご注意

- スピーカーのインピーダンスについては、スピーカーに付属の取扱説明書で確認してください。（スピーカーの背面で確認できることもあります。）
- フロントスピーカーを FRONT A と SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の両方につなぐ場合は、6 Ω 以上の公称インピーダンスのスピーカーをお使いください。

サラウンドバックスピーカーを設定するには

SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につながれたスピーカーの用途を、使用目的に応じて切り換えることができます。詳しくは、「SB Assign（サラウンドバックスピーカー割り当て）」（60ページ）をご覧ください。

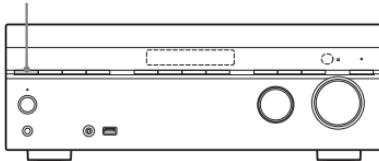
ご注意

この設定は、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーのない「Speaker Pattern」に設定している場合のみ有効です（59 ページ）。

フロントスピーカーを設定するには

使用するフロントスピーカーを選びます。
この操作は必ず本体のボタンを使って行ってください。

SPEAKERS

**SPEAKERS をくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。**

選んだスピーカー端子を表示窓の表示で確認できます。

表示	選んだスピーカー
SP A	SPEAKERS FRONT A 端子につないだスピーカー
SP B*	SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につないだスピーカー
SP A+B*	SPEAKERS FRONT A と SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の両方ににつないだスピーカー（パラレル接続）

表示窓に「SPK OFF」が表示されます。
どのスピーカー端子からも音声信号が出力されません。

* 「SP B」または「SP A+B」を選ぶには、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定してください（60 ページ）。

ご注意

ヘッドホンがつながっていると、この設定はできません。

自動音場補正を中止するには

測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。

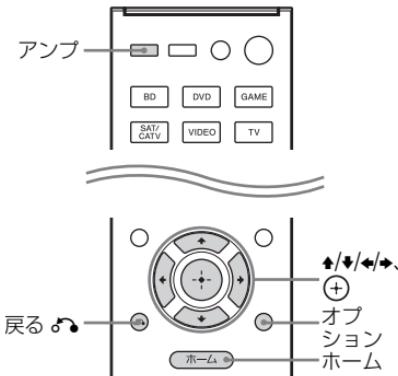
- I/O を押す。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押す、または本機の INPUT SELECTOR つまみを回す。
- 消音を押す。
- 本機の SPEAKERS を押す。
- 音量を調節する。
- ヘッドホンをつなぐ。

本機を手動で設定するには

「設定を調節する」（55 ページ）をご覧ください。

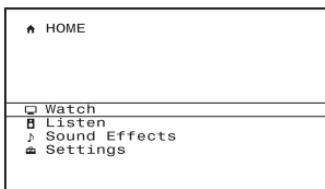
オンスクリーン表示(OSD)の操作方法

テレビ画面に本機のメニューを表示して、リモコンの $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ および \oplus を押して、テレビ画面上で使いたい機能を選ぶことができます。
本機を操作をするときは、あらかじめリモコンのアンプを押してください。
本機を操作できないことがあります。



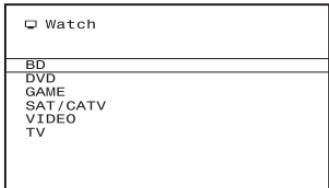
メニューを使う

- 1 テレビの入力を本機に接続した入力に切り換える。
- 2 アンプを押してから、ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



- 3 \uparrow/\downarrow をくり返し押してお好みのメニューを選び、 \oplus で決定する。
テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

例：「Watch」を選んだ場合



- 4 \uparrow/\downarrow をくり返し押して調整したいメニュー項目を選び、 \oplus で決定する。

ちょっと一言

OSD の右下に「OPTIONS」が表示されているときは、オプションを押して機能リストを表示させて、関連した機能を選べます。

前の画面に戻るには

戻る \leftarrow を押す。

メニューを閉じるには

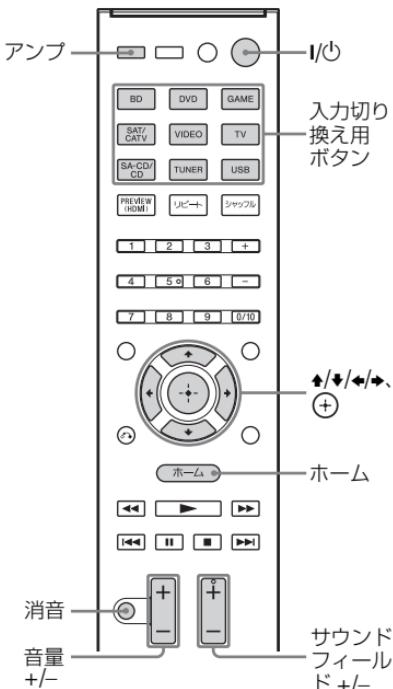
ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

ホームメニュー一覧

メニュー	説明
Watch	本機に入力されている映像ソースを選びます (31 ページ)。
Listen	本機に入力されている音楽ソースを選びます (31 ページ)。 内蔵チューナーの FM/AM ラジオも楽しめます (38 ページ)。
Sound Effects	ソニー独自のさまざまな音響技術や機能を楽しめます (40 ページ)。
Settings	本機の設定を調節します (55 ページ)。

基本操作

入力ソース機器を再生する



- 1 テレビの入力を本機に接続した入力に切り換える。
- 2 アンプを押してから、ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 3 「Watch」または「Listen」を選んで、⊕を押す。
テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

4 使用する機器を選んで、⊕を押す。

5 機器の電源を入れて再生を開始する。

6 音量 +/- を押して、音量を調節する。
本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。

7 サラウンド音声を楽しむ場合は、
サウンドフィールド +/- を押す。
本体の A.F.D./2CH、MOVIE または MUSIC でも操作できます。
詳しくは、40 ページをご覧ください。

ちょっと一言

- 本機の INPUT SELECTOR つまみを回して、またはリモコンの入力切り換え用ボタンを押して、お好みの機器を選べます。
- 本体の MASTER VOLUME つまみまたはリモコンの音量 +/- ボタンを使うと、音声の調整速度や調節量を変えられます。音量を素早く上げ／下げるには
 - 本体の MASTER VOLUME つまみを速く回す。
 - リモコンの音量 +/- を長押しする。
 - 音量を微調整するには
 - 本体の MASTER VOLUME つまみをゆっくり回す。
 - リモコンの音量 +/- を短く押す。

音を一時的に消すには

消音を押す。

以下の操作を行うと、消音機能が解除されます。

- 消音をもう一度押す。
- 音量を上げる。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正を実行する。

スピーカーの破損を防ぐために

本機の電源を切る前に音量を下げておいてください。

iPod/iPhone を再生する

本機の専用（USB）ポートについて、iPod/iPhone の音楽コンテンツを楽しめます。

iPod/iPhone の接続に関して詳しくは、25 ページをご覧ください。

対応 iPod/iPhone モデル

本機が対応している iPod/iPhone モデルは下記のとおりです。本機につないで使用する前に iPod/iPhone を最新のソフトウェアにアップデートしてください。



iPod touch
第四世代



iPod touch
第三世代



iPod touch
第二世代



iPod nano
第六世代



iPod nano
第五世代
(ビデオカメラ)



iPod nano
第四世代
(ビデオ)



iPod nano
第三世代
(ビデオ)



iPod
classic



iPhone 4S



iPhone 4



iPhone 3GS



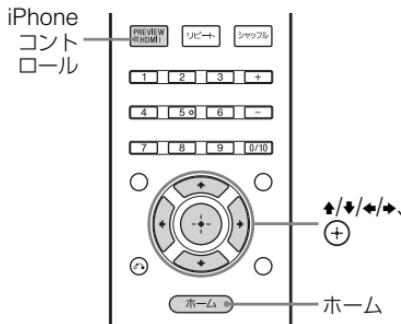
iPhone 3G

ご注意

- 本機につないだ iPod/iPhone を使用中に、iPod/iPhone に保存されたデータが消失、破損しても、弊社では一切の責任を負いません。
- 本製品は iPod/iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとテベロッパによって認定されています。

iPod/iPhone 操作モードを選ぶ

OSD メニューやリモコンの iPhone コントロールを使って iPod/iPhone 操作モードを選びます。 OSD メニューから iPod/iPhone のコンテンツを閲覧できます。 テレビ画面の電源が切れているときは、表示窓の表示を見ながらすべての操作を行うこともできます。



- 1 ホームを押す。**
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 「Listen」を選んで、⊕を押す。**
- 3 「USB」を選んで、⊕を押す。**
iPod または iPhone がつながっているときは、テレビ画面に「iPod/iPhone」が表示されます。
- 4 「System OSD」または「iPod/iPhone」を選んで、⊕を押す。**

iPod/iPhone を「System OSD」モードを使って操作する

- 1 「iPod/iPhone 操作モードを選ぶ」(33 ページ) の手順 4 で「System OSD」が選択されていることを確認する。**
- 2 コンテンツリストからお好みのコンテンツを選び、⊕を押す。**
選んだコンテンツの再生が始ま
り、テレビ画面に音楽コンテンツ
の情報が表示されます。

再生モードを選ぶには

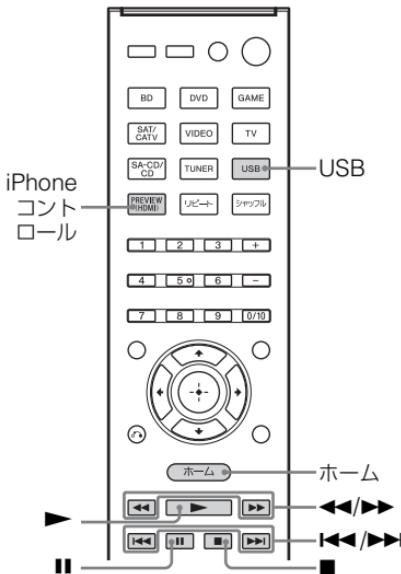
リモコンのオプションを使って再生モードを変えることができます。

- Repeat: Off / One / All
- Shuffle: Off / Songs / Albums
- Audiobooks: Slower / Normal / Faster

iPod/iPhone を「iPod/iPhone」モードを使って操作する

- 1 「iPod/iPhone 操作モードを選ぶ」(33 ページ) の手順 4 で「iPod/iPhone」が選択されていることを確認する。**
- 2 iPod/iPhone メニューを使って、お好みのコンテンツを選ぶ。**
iPod/iPhone の操作について詳し
くは、iPod/iPhone に付属の取扱
説明書を参照してください。

リモコンを使って iPod/iPhone を操作するには



USB を押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン 動作

▶	再生開始
■	一時停止
◀▶/◀▶	早戻し／早送り
◀▶/◀▶	前／次のトラックへ移動
iPhone コント ロール	iPod/iPhone 操作モード を選択

iPod/iPhoneについてご注意

- 本機の電源が入っているときに、iPod/iPhone を本機につなぐと充電されます。
- 本機から iPod/iPhone へ楽曲を転送することはできません。
- 操作中に iPod/iPhone を取りはずさないでください。データ破損や iPod/iPhone の破損を防ぐため、iPod/iPhone を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。

iPod/iPhone メッセージ一覧

メッセージと説明

Reading

本機は、iPod または iPhone の情報を認識して読み込んでいます。

Loading

本機は、iPod または iPhone の情報をロードしています。

Not supported

本機が対応していない iPod または iPhone がつながっています。

No device is connected

iPod または iPhone がつながれていません。

No music

楽曲が見つかりませんでした。

Headphones not supported

iPod または iPhone がつながっているときは、ヘッドホンから音が出力されません。

USB 機器を再生する

本機の USB ポートにつないで、USB 機器の音楽コンテンツを楽しめます。

USB 機器の接続に関して詳しくは、「iPod、iPhone、USB 機器をつなぐ」(25 ページ) ページをご覧ください。

本機で再生できる音楽ファイルフォーマットは下記のとおりです。

ファイル フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	".mp3"
AAC*	".m4a"、".3gp"、 ".mp4"
WMA9 Standard*	".wma"
WAV	".wav"

* DRM でエンコードされたファイルは本機で再生できません。

対応 USB 機器

本機が対応しているソニー USB 機器は下記のとおりです。

動作検証済みのソニー USB 機器

製品名	型名
Walkman®	NW-A856 / A866
	NW-E053 / E062
	NW-F806
	NW-S756 / S766 / S775
	NW-Z1060
	NWD-W253 / W263 / W273

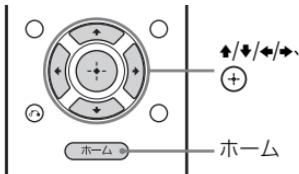
製品名	型名
POCKETBIT™	USM8GJ
	USM1GL / 4GL / 8GL / 32GL
	USM16GLX / 32GLX / 64GLX
	USM4GN / 8GN / 32GN
	USM4GM
	USM64GP
	USM8GQ / 32GQ / 64GQ
	USM8GR / 16GR / 32GR
	USM8GT
	USM16GU
	USM512J
デジタルボイ スレコーダー	ICD-AX412F
	ICD-PX312F / PX333F
	ICD-SX713 / SX750 / SX950 / SX1000
	ICD-TX50
	ICD-UX502 / UX512 / UX513F / UX522F / UX523F / UX532 / UX533F
	ICZ-R50 / R51

ご注意

- 本機とつないでも動かない USB 機器もあります。
- 本機では、NTFS フォーマットのデータを読み取ることはできません。
- 本機では、ハードディスクドライブの一番目以外のパーティションに保存されたデータを読み取れません。
- ここにリストアップされていない機種の動作は保証しません。
- ここにリストアップされている USB 機器のすべての動作を保証するものではありません。

- USB 機器によっては、一部の地域では入手できない場合があります。
- リストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体でフォーマットするか、もしくは機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
- USB 機器の「Creating Library」または「Creating Database」の表示が消えたことを確認してから、USB 機器を本機につないでください。

USB 機器を操作する



1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 「Listen」を選んで、+を押す。

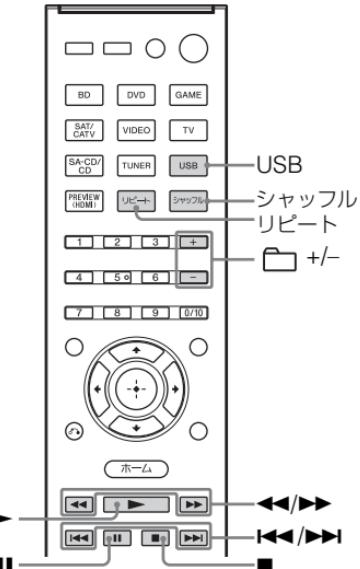
USB 機器がつながれているときは、テレビ画面に「USB」が表示されます。

3 「USB」を選んで、+を押す。

本機のリモコンを使って USB 機器を操作できます。

テレビ画面に音楽コンテンツの情報が表示されます。

リモコンを使って USB 機器を操作するには



USB を押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン 動作

▶ 再生開始

⏸ 一時停止

⏹ 再生停止

◀◀/▶▶ 早戻し／早送り

◀◀/▶▶ 前／次のファイルへ移動

📁 +/- 前／次のフォルダーへ移動

リピート * リピートモードに入る
(Off / One / All / Folder)

シャッフル * シャッフルモードに入る
(Off / All / Folder / Folder)

* をくり返し押して再生モードを選んでください。

USB 機器についてご注意

- 操作中に USB 機器を取りはずさないでください。データ破損や USB 機器の破損を防ぐため、USB 機器を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。
- 本機と USB 機器を USB ハブを介してつながないでください。
- つないだ USB 機器の種類によっては、「Reading」が表示されるまでに 10 秒ほどかかることがあります。
- USB 機器がつながれているときは、本機は USB 機器のファイルすべてを読み込みます。USB 機器に複数のフォルダーやファイルがあると、本機が USB 機器を読み込み終わるまでに時間がかかることがあります。
- 本機が認識できるデータ量は下記のとおりです。
 - 256 フォルダー（「ROOT」フォルダーを含む）
 - 各フォルダー 256 音声ファイル
 - 8 フォルダー階層（ツリー構造ファイル、「ROOT」フォルダーを含む）
- 最大音声ファイル数および最大フォルダーナンバーは、ファイルやフォルダーコンストラクションによって異なります。
USB 機器に別の種類のファイルや不要なフォルダーを保存しないでください。
- あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。互換性のない USB 機器を使うと、騒音の原因となったり、音が途切れたり、あるいはまったく再生できないこともあります。
- 下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
 - フォルダー構成が複雑な場合
 - メモリー容量を超えていている場合
- つないだ USB 機器のすべての機能に、本機が対応している必要はありません。

- 本機への再生順は、つないだ USB 機器の再生順とは異なることがあります。
- 音声ファイルのないフォルダーはスキップされます。
- 非常に長いトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。

USB メッセージ一覧

メッセージと説明

Reading

本機は、USB 機器の情報を認識して読み込んでいます。

Device error

USB 機器のメモリーが認識できませんでした（35 ページ）。

Not supported

対応していない USB 機器がつながれている、未確認の機器がつながれている、もしくは USB 機器が USB ハブを介してつながっています（35 ページ）。

No device is connected

USB 機器がつながっていない、もしくはつながれた USB 機器が認識されていません。

No track

トラックが見つかりませんでした。

チューナーの操作

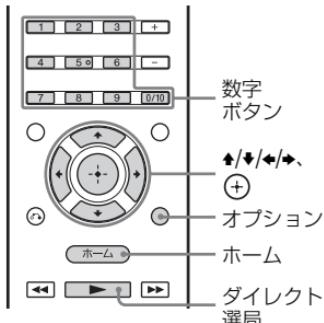
FM/AM ラジオを聞く

内蔵チューナーをとおして FM および AM 放送を聞くことができます。必ず事前に FM および AM アンテナを本機につないでください (26 ページ)。

ちょっと一言

ダイレクト選局の周波数スケールは以下のとおりです。

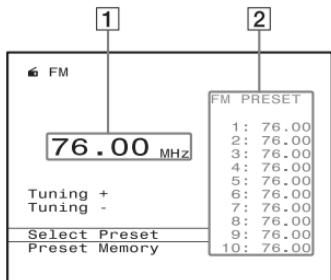
- FM 局 : 100 kHz
- AM 局 : 9 kHz



- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、④を押す。
- 2 メニューから「FM」または「AM」を選んで、④を押す。
テレビ画面に FM または AM メニュー項目リストが表示されます。

FM/AM 画面

↑/↓/↔/↔ と ④を押して、それぞれの項目を画面上で選んで操作できます。



[1] 周波数表示 (39 ページ)

[2] プリセット局一覧 (39 ページ)

自動で受信する（自動選局）

「Tuning +」または「Tuning -」を選んで、④を押す。

低い周波数から高い周波数の局へ順にスキャンするときは「Tuning +」を選び、高い周波数から低い周波数の局へ順にスキャンするときは「Tuning -」を選びます。
放送局を受信するとスキャンを自動的に停止します。

FM ステレオ放送の受信状態がよくない場合

- 1 自動選局またはダイレクト選局 (39 ページ) を使って聞きたい曲を受信する、もしくはプリセットした放送局を選ぶ (39 ページ)。
- 2 オプションを押す。
- 3 「FM Mode」を選んで、④を押す。
- 4 「Mono」を選んで、④を押す。

手動で受信する（ダイレクト選局）

数字ボタンで放送局の周波数を直接入力することができます。

- 1 ダイレクト選局を押す。**
- 2 数字ボタンを押して周波数を入力し、 \oplus を押す。**

例 1 : FM 88.00 MHz

8 \rightarrow 8 \rightarrow 0 と選ぶ。

例 2 : AM 1,350 kHz

1 \rightarrow 3 \rightarrow 5 \rightarrow 0 と選ぶ。

ちょっと一言

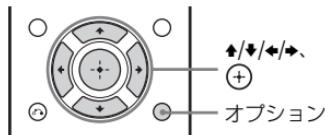
AM 放送を受信するときは、付属の AM ループアンテナの向きを受信状態の良い方向に調節してください。

放送局を受信できない場合

「---.--- MHz」または
「---.--- kHz」が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。
正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順 1 から手順 3 までをくり返してください。それでも放送局を受信できない場合、その地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

FM/AM ラジオ放送局をプリセットする（プリセットメモリー）

お気に入りの放送局として、FM 局と AM 局で最大 30 局ずつ登録できます。



- 1 プリセットしたい放送局を自動受信（38 ページ）またはダイレクト選局（39 ページ）で受信する。**
- 2 「Preset Memory」を選んで、 \oplus を押す。**
- 3 プリセット番号を選んで、 \oplus を押す。**
選んだプリセット番号で放送局が登録されます。
- 4 手順 1 から 3 をくり返して、他の放送局を登録する。**
下記のように放送局を登録できます。
 - AM 局 : AM 1 から AM 30
 - FM 局 : FM 1 から FM 30

プリセットした放送局を受信する

- 1 メニューから「FM」または「AM」を選んで、 \oplus を押す。**
- 2 「Select Preset」を選んで、 \oplus を押す。**
- 3 お好みのプリセットした放送局を選んで、 \oplus を押す。**
1 から 30 までのプリセット番号が有効です。

プリセットした放送局に名前をつける (Name Input)

- 1 メニューから「FM」または「AM」を選んで、**①**を押す。
- 2 「Select Preset」を選んで、**①**を押す。
- 3 名前をつけたい放送局を選んで、オプションを押す。
- 4 「Name Input」を選んで、**①**を押す。
- 5 **↑/↓**をくり返し押して文字を選び、**④**を押す。
↔/↔を押して、入力位置を前後に移動できます。放送局には、最大8文字の名前を入力することができます。
- 6 手順5をくり返して一文字ずつ入力し、**④**を押す。
入力した名前が登録されます。

音響効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機は、マルチチャンネルのサラウンド音声を作り出すことができます。本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドから最適なサウンドフィールドを選ぶことができます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**①**を押す。
- 2 「Sound Field」を選んで、**①**を押す。
- 3 サウンドフィールドを選ぶ。

ちょっと一言

- リモコンのサウンドフィールド **+/-**をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。
- 本体のA.F.D./2CH、MOVIE または MUSIC でも操作できます。

Auto Format Direct (A.F.D.)／2チャンネルサウンドモード

• Auto Format Direct (A.F.D.)

モード：オートフォーマットダイレクトモードを使って、より忠実な音を聞いたり、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選んだりすることができます。

• 2チャンネルサウンドモード

：お使いのソフトウェアの記録フォーマットやつないだ再生機器、本機のサウンドフィールドの設定などに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えることができます。

■ A.F.D. Auto (A.F.D. AUTO)

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。

■ Multi Stereo (MULTI ST.)

2チャンネルの左／右の信号をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

■ 2ch Stereo (2CH ST.)

フロント左／右の2本のスピーカーのみから音を出力します。アクティブサブウーファーからは音を出力しません。

通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、マルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

■ Analog Direct (A. DIRECT)

選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り替えます。この機能を使って、高品質のアナログ音源を楽しむことができます。

この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのレベルのみ調節できます。

ご注意

入力に BD、DVD、GAME および USB を選んでいるときは、「Analog Direct」は選べません。

ムービーモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、映画館の臨場感を再現できます。

■ HD-D.C.S.

HD Digital Cinema Sound (HD-D.C.S.) は、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。

HD-D.C.S. モードにより、マスタリング処理時に映画の音響技術者が意図したとおりの最適な臨場感とともに、高音質なブルーレイや DVD の映画をご自宅で楽しむことができます。

HD-D.C.S. のエフェクトタイプを下記から選ぶことができます。

- **Dynamic**：残響が多い反面、広々とした雰囲気に欠ける環境（音が充分に吸収されていない環境）に適しています。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館の音を再現します。ダビングシアターの広々とした雰囲気が強調され、独特の音場が作り出されます。
- **Theater**：一般的リビングルーム向けです。映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。ブルーレイディスクに録画されたコンテンツを映画館の雰囲気で鑑賞したいときに最も適しています。
- **Studio**：適切な音響機器を備えたりビングルームに適しています。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスするときの、残響感を再現します。反射音や残響音は最低限のレベルに抑えています。ただし、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

■ PLII Movie

ドルビープロロジック II ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドにエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画のビデオなどの音声も 5.1 チャンネルで再生できます。

■ PLIIx Movie

ドルビープロロジック IIx ムービー モードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビープロロジック II ムービーまたはドルビーデジタル 5.1 を 7.1 映像チャンネルにディスクリートします。

■ PLIIz Height (PLIIz)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Cinema (Neo:6 CIN)

DTS Neo:6 Cinema モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。

ミュージックモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

■ Hall (HALL)

クラシックのコンサートホールの音響を再現します。

■ Jazz Club (JAZZ)

ジャズクラブの音響を再現します。

■ Live Concert (CONCERT)

300 席のライブハウスの音響を再現します。

■ Stadium (STADIUM)

広々とした屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■ Sports (SPORTS)

スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■ Portable Audio (PORTABLE)

ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3 やその他の圧縮された音源に適しています。

■ PLII Music

ドルビープロロジック II ミュージック モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIx Music

ドルビープロロジック IIx ミュージック モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIz Height (PLIIz)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Music (Neo:6 MUS)

DTS Neo:6 Music モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。CD など通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいる場合には

このサウンドフィールドは、本機にヘッドホンをつないでいるときのみ選択できます。

■ HP 2CH

ヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます（「Analog Direct」を除く）。通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

■ HP Direct (HP DIRECT)

「Analog Direct」が選ばれているときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。

イコライザー、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ信号を出力します。

アクティブサブウーファーをつなぎでいる場合

アクティブサブウーファーから2チャネル信号に出力される低域効果音のLFE信号がないときは、本機がアクティブサブウーファーへ出力用の低周波信号を生成します。ただし、すべてのスピーカーが「Large」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」では低周波信号が生成されません。

ドルビーデジタルの低音リダイレクト回路を最大限に活かすため、アクティブサブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高域に設定することをおすすめします。

サウンドフィールドについて ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、使用できないサウンドフィールドがあります。

- PLIIx Movie/MusicとPLIIz Heightを同時に選ぶことはできません。

- PLIIx Movie/Musicは、スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーありの設定にした場合のみ使用できます。

- PLIIz Heightは、スピーカーパターンをフロントハイスピーカーありの設定にした場合のみ使用可能です。

- 音楽用と映画用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。

- サンプリング周波数が48kHzよりも高いDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audioまたは Dolby TrueHDを受信している。

- 「Analog Direct」が選ばれている。

- スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されているときは、「PLII Movie」、「PLIIx Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」、「Neo:6 Cinema」および「Neo:6 Music」は機能しません。

- 音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settingsメニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブサブウーファーから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出ます。

- デジタル入力信号にLFE信号が含まれている。

- フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されている。

- 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」が選ばれている。

ナイトモード機能を使う

小さな音量でも映画館のような環境を作り出すことができます。深夜に映画を見るときに、小さな音量でも会話をはっきりと聞き取ることができます。この機能は、サウンドフィールドが選択されている場合でも使用できます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、 \oplus を押す。
- 2 「Night Mode」を選んで、 \oplus を押す。
- 3 「On」または「Off」を選んで、 \oplus を押す。

ご注意

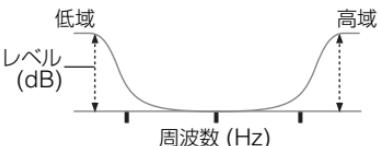
この機能は、「Analog Direct」が選ばれているときは働きません。

ちょっと一言

- 本機の NIGHT MODE でも、ナイトモード機能のオン／オフの設定ができます（7ページ）。
- ナイトモードが有効になると、低域、高域、エフェクトレベルが上がり、「D.Range Comp.」が自動的に「On」に設定されます。

イコライザーを調整する

以下のパラメーターを使って、フロントスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、 \oplus を押す。
- 2 「Equalizer」を選んで、 \oplus を押す。
- 3 「Bass」か「Treble」どちらかのゲインを選んで、 \oplus を押す。
- 4 ゲインを調節し、 \oplus を押す。

ご注意

- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。
- Bass と Treble の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

補正タイプを選ぶ

自動音場補正を実行したあとに、補正タイプを選べます。詳しくは、「Calibration Type」（58ページ）をご覧ください。

ピュアダイレクト機能を使う

ピュアダイレクトモードで、原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。ピュアダイレクト機能はすべての入力で使えます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、⊕を押す。**
- 2 「Pure Direct」を選んで、⊕を押す。**
- 3 「On」または「Off」を選んで、⊕を押す。**

ご注意

ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、「Equalizer」、「Night Mode」、「Auto Volume」および「D.Range Comp.」は働きません。

ちょっと一言

リモコンまたは本機の PURE DIRECT ボタンを使って、ピュアダイレクト機能をオン／オフできます。

ピュアダイレクトを解除するには

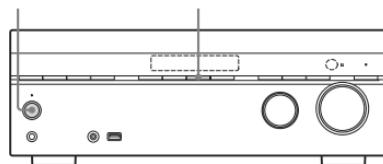
以下の操作を行うと、ピュアダイレクト機能が解除されます。

- PURE DIRECT をもう一度押す。
- サウンドフィールドを変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- 「Equalizer」、「Night Mode」、「Auto Volume」または「D.Range Comp.」の設定を変える。

サウンドフィールドを初期設定状態に戻す

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

I/□ MUSIC



- 1 I/□ を押して本機の電源を切る。**
- 2 MUSIC を押しながら、I/□ を押す。**
- 3 「S.F. CLEAR」が表示窓に表示されたら、すべてのボタンをはなす。**
すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

“ブラビアリンク”機能

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能により、HDMI 機器制御機能を搭載する、テレビ、ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、DVD プレーヤー、AV アンプなどのソニー製品を連動操作することができます。

“ブラビアリンク”機能に対応するソニー製の機器を HDMI ケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ（47 ページ）
- 電源オフ連動（48 ページ）
- システムオーディオコントロール（48 ページ）
- オートジャンルセレクター（49 ページ）
- シーンセレクト（50 ページ）
- オーディオ機器コントロール（50 ページ）
- テレビリモコンからのメニュー操作（51 ページ）

HDMI 機器制御機能は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

本機は “ブラビアリンク” 機能に対応している製品とつなぐことをおすすめします。

ご注意

- 他社製品をつないだ場合でも、「ワンタッチプレイ」、「システムオーディオコントロール」および「電源オフ連動」機能は使用できます。（他社製品がこれらの機能に対応している必要があります。）ただし、すべての他社製品での動作を保証するものではありません。

- 「シーンセレクト」および「オーディオ機器コントロール」は、ソニー独自の機能です。他社製品をつないでも働きません。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器ではこれらの機能は働きません。

“ブラビアリンク”の準備をする

本機は、「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応しています。

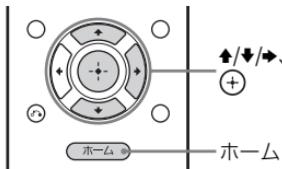
- お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応している場合は、テレビで HDMI 機器制御機能を設定すると、本機と再生機器の HDMI 機器制御機能が自動で設定されます（46 ページ）。
- お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応していない場合は、本機、再生機器、およびテレビの HDMI 機器制御機能を別々に設定してください（47 ページ）。

「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応しているテレビの場合

- 1 本機、テレビおよび再生機器を HDMI ケーブルで接続する（20、21 ページ）。（各機器が HDMI 機器制御機能に対応している必要があります。）
 - 2 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
 - 3 テレビの HDMI 機器制御機能をオンにする。
- 本機およびすべての接続機器の HDMI 機器制御機能が同時に有効になります。「COMPLETE」が表示されるまでお待ちください。設定が完了しました。

テレビの設定について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

「HDMI 機器制御設定運動」機能に 対応していないテレビの場合



1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューから「Settings」を選んで、①を押す。

テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。

3 「HDMI Settings」を選んで、①を押す。

4 「Control for HDMI」を選んで、①を押す。

5 「On」を選んで、①を押す。

HDMI 機器制御機能が有効になります。

6 ホームを押して、OSD メニューを閉じる。

7 つないだ機器の画像が表示されるように、本機とテレビの HDMI 入力を選んで、つないだ機器の HDMI 入力を合わせる。

8 つないだ機器の HDMI 機器制御機能をオンに設定にする。

つないだ機器の HDMI 機器制御機能がすでにオンに設定されている場合は、設定を変更する必要はありません。

9 他の機器でも HDMI 機器制御機能を使いたいときは、手順 7 と 8 をくり返す。

テレビとつないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- HDMI ケーブルを抜いたり接続を変えたりするときは、「「HDMI 機器制御設定運動」機能に対応しているテレビの場合」(46 ページ) または、「「HDMI 機器制御設定運動」機能に対応していないテレビの場合」(47 ページ) の手順を実行してください。
- お使いのテレビで「HDMI 機器制御設定運動」を行う前に、必ずテレビと本機を含む他の接続機器の電源を入れてください。
- 「HDMI 機器制御設定運動」を行ったあとに再生機器が動作しない場合は、再生機器の HDMI 機器制御設定を確認してください。
- つないだ機器が「HDMI 機器制御設定運動」に対応していない場合で、HDMI 機器制御には対応している場合は、テレビから「HDMI 機器制御設定運動」を行う前に、つないだ機器の HDMI 機器制御設定を行う必要があります。

ワンタッチプレイ

本機に HDMI 接続した機器で再生を始めるとき、本機とテレビは下記のように動作します。

本機とテレビ

電源が入る（スタンバイ状態の場合）



適切な HDMI 入力に切り換わる

「Pass Through」を「Auto」または「On」に設定し（63 ページ）、本機をスタンバイ状態に設定すると、テレビからのみ音声と映像を出力することができます。

ご注意

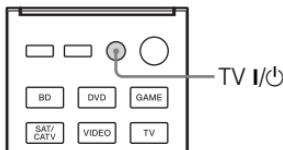
- テレビによっては、コンテンツの最初の部分が表示されないことがあります。
- 「Pass Through」が「Auto」または「On」に設定されているときは、前回テレビのスピーカーから音を出していた場合に、本機の電源が入ります。

ちょっと一言

テレビのメニューから、ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、DVD プレーヤーなどの接続機器を選ぶこともできます。本機とテレビは自動的に適切な HDMI 入力に切り換わります。

電源オフ連動

テレビのリモコンの電源ボタンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も自動的に切れます。本機のリモコンでもテレビの電源を切ることができます。



TV I/O を押す。

テレビ、本機、つないだ機器の電源が切れます。

ご注意

- ・テレビの電源連動機能の設定をオンにしてから、電源オフ連動機能を使用してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- ・つないだ機器の状態によっては、電源オフ連動機能で機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各接続機器の取扱説明書を参照してください。

システムオーディオ コントロール

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しむことができます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

テレビ

テレビスピーカー設定を本機からの音声出力に切り換える

本機

- ・電源が入る（スタンバイ状態の場合）
- ・適切な HDMI 入力に切り換わる

テレビの音声
が消音される

テレビの音声
が出力される

システムオーディオコントロール機能は以下のようにお使いいただけます。

- ・テレビの電源が入った状態で、本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、本機につないだスピーカーからテレビの音声が出力されます。本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから出力されます。
- ・本機につないだスピーカーからテレビの音声をお楽しみの際は、テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節や消音操作をすることができま

ご注意

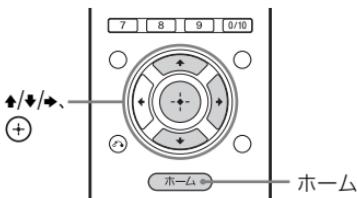
- ・テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。この場合は、テレビの取扱説明書を参照してください。

- 「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、システムオーディオコントロールの設定に応じて HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」は自動的に設定されます（63 ページ）。
- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声が出力されるまでに多少時間がかかることがあります。

オートジャンルセレクター

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG 情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能がオンに設定されている場合のみ使用することができます。



- 1 ホームを押す。**
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューから「Settings」を選んで、④を押す。**
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 3 「HDMI Settings」を選んで、④を押す。**

4 「HDMI Sound Field」を選んで、④を押す。

- **Auto**：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- **Manual**：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報 (EPG 情報)	オートジャンルセレクターで切り換わる サウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ (CS)	Sports
洋画 (CS)	HD-D.C.S.
邦画 (CS)	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ ポップス	Live Concert
海外ロック／ ポップス	Live Concert
クラシック／ オペラ	Hall
ジャズ／ フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／ コンサート	Live Concert
ランキング／ リクエスト	Live Concert
カラオケ／ のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert
民族音楽／ワールド ドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

ご注意

番組情報（EPG 情報）に応じてサウンド
フィールドが切り換わるとき、音が途切れ
ることがあります。

シーンセレクト

テレビで選んだシーンに応じて、最適
な画質とサウンドフィールドに自動的
に切り換えることができます。
操作について詳しくは、テレビの取扱
説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
Cinema	HD-D.C.S.
Sports	Sports
Music	Live Concert
Animation	A.F.D. Auto
Photo	A.F.D. Auto
Game	A.F.D. Auto
Graphics	A.F.D. Auto

ご注意

テレビによっては、サウンドフィールドが
切り換わらないことがあります。

オーディオ機器コン トロール

「オーディオ機器コントロール」に対
応したテレビをお使いのときは、画面
の右側に操作用のウィジェット（子画
面）が表示されます。

テレビのリモコンで、入力やサウンド
フィールドの切り換えを操作できま
す。センタースピーカーやアクティブ
サブウーファーのレベル設定、
「Dual Mono」(63 ページ) や
「A/V Sync.」(62 ページ) の設定も
できます。

ご注意

「オーディオ機器コントロール」のご利用に
は、テレビのブロードバンド接続環境が必
要です。

テレビリモコンから のメニュー操作

テレビのリモコンを使って本機のメニューを操作できます。

テレビに認識されている本機 (AV AMP) を選ぶ。

テレビのリモコンのカーソルキーなどで、本機のメニューを操作できます。

ご注意

- 本機は「Tuner (AV AMP)」としてテレビに認識されます。
- お使いのテレビがリンクメニューに対応している必要があります。
- テレビの種類によっては、一部の操作が行えないことがあります。

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を切り換える (INPUT MODE)

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り換えたりすることができます。

1 本機の INPUT SELECTOR つまみを回して、入力を選ぶ。

リモコンの入力ボタンでも操作できます。

2 本機の INPUT MODE をくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。

選択した音声入力が表示窓に表示されます。

- AUTO：デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMI の音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビの入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が優先されます。お使いのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。

本機とテレビ両方の HDMI 機器制御設定が有効になっていないと、ARC は動作しません。

- OPT：デジタル音声信号入力を OPTICAL 端子に指定します。
- COAX：デジタル音声信号入力を COAXIAL 端子に指定します。

- ANALOG：アナログ音声信号
入力を AUDIO IN (L/R) 端子に
指定します。

ご注意

- 入力によっては、表示窓に「-----」が表
示され、他のモードを選ぶことができま
せん。
- 「Analog Direct」を使っているときは、
音声入力は「ANALOG」に設定されま
す。他のモードは選べません。

他の音声入力端子を 使う (Audio Input Assign)

端子の初期設定がつないでいる機器と
対応していない場合は、デジタル入力
端子の割り当てを他の入力に変更する
ことができます。

入力端子の割り当てを変更したあと
は、入力切り換用ボタン（または本
体の INPUT SELECTOR つまみ）で
つないでいる機器を選ぶことができます。

例：

DVD プレーヤーを OPTICAL IN 1
(SAT/CATV) 端子につないでいると
きは

- OPTICAL IN 1 (SAT/CATV) 端子
を「DVD」に割り当てる。

- 1 ホームメニューから「Settings」
を選んで、⊕を押す。
- 2 「Input Settings」を選んで、⊕を
押す。
- 3 「Audio Input Assign」を選んで、
⊕を押す。
- 4 割り当たい入力名を選ぶ。
- 5 手順 4 で選んだ入力に割り当てる
音声信号を、↑/↓/↔/↔ を使って選ぶ。
- 6 ⊕を押す。

入力名	BD	DVD	GAME	SAT/ CATV	VIDEO	SA-CD/ CD
割り当て可能な音声入力端子	OPT1	○	○	○*	○	○
	OPT2	○	○	○	○	○
	COAX	○	○	○	○	○*
	None	○*	○*	○	○*	○

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、「INPUT MODE」設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てるることはできません。

バイアンプ接続する

1 ホームを押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 「Settings」を選んで、⊕を押す。

テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。

3 「Speaker Settings」を選んで、⊕を押す。

4 「Speaker Pattern」を選んで、⊕を押す。

5 サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使わないスピーカーパターンを選び、⊕を押す。

6 「SB Assign」を選んで、⊕または→を押す。

7 「Bi-Amp」を選んで、⊕を押す。

SPEAKERS FRONT A 端子から出力される信号と同じ信号を SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/ FRONT B 端子から出力できます。

メニューを閉じるには

ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

ご注意

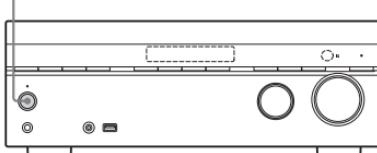
- 自動音場補正を実行する前に、「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定する。
- 「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定すると、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーのスピーカーレベルと距離の設定が無効になり、フロントスピーカーの設定が使われます。

お買い上げ時の設定に戻す

下記の手順で、記憶させた設定をすべて消し去り、本機をお買い上げ時の設定に戻すことができます。初めて本機をお使いになるときも、下記の手順で本機を初期化してください。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

I/□



1 I/□ を押して本機の電源を切る。

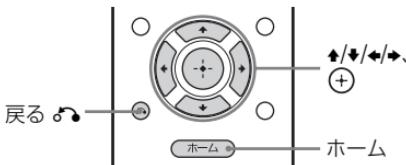
2 I/□ を 5 秒間押し続ける。

表示窓に「CLEARING」が表示されてしまふと、表示が「Cleared!」に変わります。初期設定から変更、または調整された設定はすべて初期化されます。

設定を調節する

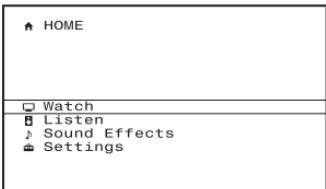
Settings メニューを使う

Settings メニューを使って、スピーカー、サラウンド効果など、さまざまな設定を調節できます。



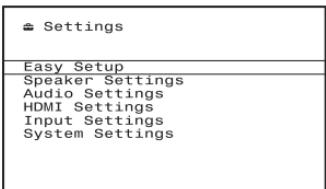
1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。



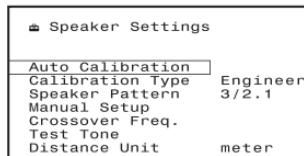
2 メニューから「Settings」を選び、 ④でメニュー modeに入る。

テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。



3 お好みのメニュー項目を選び、④を押す。

例：「Speaker Settings」を選んだ場合



4 お好みのパラメーターを選んで、 ④を押す。

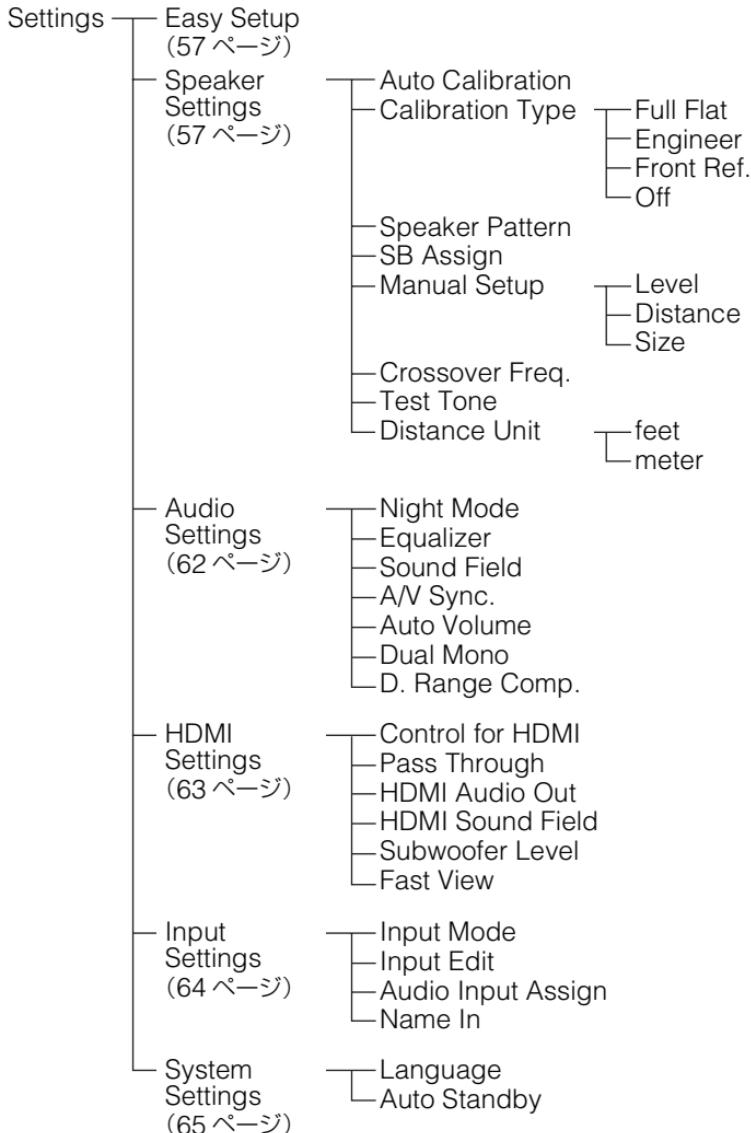
前の画面に戻るには

戻る ④ を押す。

メニューを閉じるには

ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

Settings メニュー一覧



ご注意

テレビ画面に表示されるメニューのパラメーターは、現在の設定や選ばれているアイコンの状態によって異なります。

かんたん設定 (Easy Setup)

Easy Setup（かんたん設定）を再起動して基本設定を行います。画面の指示にしたがって操作してください（27 ページ）。

スピーカー設定 (Speaker Settings)

それぞれのスピーカーを手動設定できます。
自動音場補正完了後に、スピーカーレベルを調節することもできます。

ご注意

スピーカー設定は、現在の視聴位置のみに適用されます。

■ Auto Calibration

視聴位置から自動音場補正を実行できます。

1 テレビ画面の指示にしたがって操作し、 \oplus を押す。

5 秒後に測定が始まります。測定が完了するのにおよそ 30 秒かかり、テスト音が鳴り続けます。
測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り換わります。

ご注意

画面にエラーコードが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（58 ページ）をご覧ください。

2 お好みの項目を選んで、 \oplus を押す。

- **Retry**：自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit**：測定結果を保存し、設定を終了します。

• **WRN Check**：測定結果に関連する警告を表示します。「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（58 ページ）をご覧ください。

- **Exit**：測定結果を保存せずに設定を終了します。

3 測定結果を保存する。

手順 2 で「Save&Exit」を選択します。

ご注意

スピーカーの配置を変えた場合、サラウンド音声を楽しむには、自動音場補正をもう一度実行することをおおすすめします。

ちょっと一言

- 距離を表示する単位は、Speaker Settings メニューの「Distance Unit」で変更することができます（62 ページ）。
- スピーカーのサイズ（「Large」／「Small」）は、低周波特性によって決まります。測定結果は、測定用マイクとスピーカーの位置、および測定を行う部屋の形状によって変わります。測定結果を適用することをおおすすめします。Speaker Settings メニューで設定を変えることもできます。まず測定結果を保存してから、設定を変更するようにしてください。

自動音場補正の結果を確認するには

下記の手順にしたがって、「Auto Calibration」（57 ページ）で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

「Auto Calibration」（57 ページ） の手順 2 で「WRN Check」を選んで \oplus を押す。

警告メッセージが表示されたら、メッセージを確認し、設定を変更せずに本機を使ってください。
もしくは、必要に応じて、もう一度自動音場補正を実行してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1 \oplus を押す。

テレビ画面に「Retry？」が表示されます。

2 「Yes」を選んで、 \oplus を押す。

3 「Auto Calibration」(57 ページ)の手順 1 から 3 をくり返す。

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示と説明

Error 30

ヘッドホンが本機の PHONES 端子につながっています。ヘッドホンを取りはずし、もう一度自動音場補正を実行してください。

Error 31

SPEAKERS がオフに設定されています。スピーカー設定を変更し、もう一度自動音場補正を実行してください。

Error 32

Error 33

スピーカーが検出されない、または正しくつながっていません。

- フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが 1 本しかつながっていません。
- 左右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。
- サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーを SPEAKERS SURROUND 端子につないでください。
- サラウンドバックスピーカーが SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B R 端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを 1 つだけつなぐときは、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B L 端子につないでください。

表示と説明

- フロントハイスピーカーの左右いずれかがつながっていません。

測定用マイクがつながっていません。測定用マイクが正しくつながれていることを確認して、自動音場補正をもう一度実行してください。

測定用マイクが正しくつながっているにもかかわらず、エラーコードが表示される場合は、測定用マイクのケーブルが損傷している可能性があります。

Warning 40

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。

Warning 41

Warning 42

測定用マイクからの入力が過大です。

- スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

Warning 43

アクティブサブウーファーの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

No Warning

警告情報はありません。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合があります。測定結果の値のままで本機を使用できます。

■ Calibration Type

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、この設定を選ぶことができます。

- **Full Flat**：各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- **Engineer**：「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
- **Front Ref.**：すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。

- Off：自動音場補正のイコライザーをオフにします。

■ Speaker Pattern

お使いのスピーカーシステムに合わせたスピーカーパターンを選ぶことができます。

スピーカーパターンの設定

例：

5 / 2 . 1

フロント 2本 +
フロントハイ 2
本 + センター サラウンド 2本
 アクティブ
 サブウーファー

スピーカー パターン	フロント 左/右	フロントハイ 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック左	サラウンド バック右	アクティブ サブウーファー
5/2.1	○	○	○	○	-	-	○
5/2	○	○	○	○	-	-	-
4/2.1	○	○	-	○	-	-	○
4/2	○	○	-	○	-	-	-
3/4.1	○	-	○	○	○	○	○
3/4	○	-	○	○	○	○	-
2/4.1	○	-	-	○	○	○	○
2/4	○	-	-	○	○	○	-
3/3.1	○	-	○	○	○	-	○
3/3	○	-	○	○	○	-	-
2/3.1	○	-	-	○	○	-	○
2/3	○	-	-	○	○	-	-
3/2.1	○	-	○	○	-	-	○
3/2	○	-	○	○	-	-	-
2/2.1	○	-	-	○	-	-	○
2/2	○	-	-	○	-	-	-
3/0.1	○	-	○	-	-	-	○
3/0	○	-	○	-	-	-	-
2/0.1	○	-	-	-	-	-	○
2/0	○	-	-	-	-	-	-

■ SB Assign (サラウンド バックスピーカー割り当て)

バイアンプ接続もしくはスピーカーフロント B 接続に、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子を選べます。

この設定は、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーのない「Speaker Pattern」に設定している場合のみ有効です（59 ページ）。

- **Speaker B** : SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にフロントスピーカーステムを増やす場合は、「Speaker B」を選んでください。
- **Bi-Amp** : バイアンプ接続で SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にフロントスピーカーをつなぐ場合は、「Bi-Amp」を選んでください。
- **Off** : SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にサラウンドバックスピーカーもしくはフロントハイスピーカーをつなぐ場合は、「Off」を選んでください。

ご注意

バイアンプ接続またはスピーカーフロント B 接続をサラウンドバックスピーカー接続またはフロントハイスピーカー接続に変える場合は、「SB Assign」を「Off」に設定し、もう一度スピーカーを設定してください。「Speaker Settings についてご注意（自動音場補正）」（27 ページ）または「Manual Setup」（60 ページ）をご覧ください。

■ Manual Setup

「Manual Setup」画面で、スピーカーそれぞれを手動で調節できます。自動音場補正完了後に、スピーカーレベルを調節することもできます。

スピーカーレベルを調整するには

各スピーカー（フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）のレベルを調整できます。

- 1 レベルを調節したいスピーカーを選び、 \oplus を押す。
- 2 「Level」からパラメーターを選んで、 \oplus を押す。
- 3 選んだスピーカーのレベルを調節し、 \oplus を押す。

レベルは -10.0 dB から +10.0 dB まで 0.5 dB 単位で調節できます。

ご注意

音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settings メニューすべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブサブウーファーから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出ます。

- デジタル入力信号に LFE 信号が含まれている。
- フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されている。
- 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」の設定を変える。

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定するには

視聴位置から各スピーカー（フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

- 1 視聴位置からの距離を設定したいスピーカーを選び、 \oplus を押す。
- 2 「Distance」からパラメーターを選んで、 \oplus を押す。
- 3 選んだスピーカーの距離を調節し、 \oplus を押す。

距離を 1 m 0 cm から 10 m 0 cm まで 1 cm 単位で調節できます。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、設定できないパラメーターがあります。
- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。

各スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）のサイズを調整できます。

1 サイズを調節したいスピーカーを選び、 \oplus を押す。

2 「Size」からパラメーターを選んで、 \oplus を押す。

3 選んだスピーカーのサイズを調節し、 \oplus を押す。

- Large：低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、「Large」を選びます。通常は「Large」を選びます。

- Small：マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分に感じるとときは、「Small」を選んで、低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは「Large」に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。

ちょっと一言

- 各スピーカーの「Large」および「Small」の設定によって、内部のサウンドプロセッサーがチャンネルの低音信号をカットするかどうかが決まります。チャンネルからの低音がカットされると、低音リダイレクト回路により、該当する低音信号がアクティブサブウーファーまたは「Large」に設定された他のスピーカーから再生されます。

しかし、低音には一定の指向性があるため、できればカットしたくないものです。したがって、小型のスピーカーを使用するときでも、低音を出力したい場合は、「Large」に設定することができます。逆に、大きなスピーカーを使用していても、できればそのスピーカーから低音を出力たくない場合は、「Small」に設定してください。

全体の音量が小さい場合は、すべてのスピーカーを「Large」に設定してください。低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることができます。

- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。

■ Crossover Freq. (スピーカーのクロスオーバー周波数)

Speaker Settings メニューでスピーカーサイズが「Small」に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

1 クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーのスピーカーパラメーターを選び、 \oplus を押す。

2 設定値を調節し、 \oplus を押す。

■ Test Tone

「Test Tone」画面でテストトーンの種類を選べます。

ちょっと一言

- すべてのスピーカーのレベルを同時に調整するには、音量 $+$ / $-$ を押してください。本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。
- 調整中は、表示窓に調整した値が表示されます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。

1 「Test Tone」を選んで、 \oplus を押す。

2 もう一度「Test Tone」を選んで、 \oplus を押す。

3 パラメーターを調節し、 \oplus を押す。

- Off

- Auto : テストトーンが各スピーカーから順番に 출력されます。

4 スピーカーレベルを調節したいスピーカーを選び、 \oplus を押す。

5 選んだスピーカーのレベルを調節し、 \oplus を押す。

■ Distance Unit

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

- feet : 距離はフィート単位で表示されます。

- meter : 距離はメートル単位で表示されます。

音声設定 (Audio Settings)

好みに合わせて音声の設定を調節できます。

■ Night Mode

小さな音量でも映画館のような環境を作り出すことができます。詳しくは、「ナイトモード機能を使う」(44ページ)をご覧ください。

■ Equalizer

フロントスピーカーの低域および高域レベルを調節できます。詳しくは、「イコライザーを調整する」(44ページ)をご覧ください。

■ Sound Field

入力信号に適用するサウンド効果を選べます。詳しくは、「音響効果を楽しむ」(40ページ)をご覧ください。各入力の機能を個々に設定できます。

■ A/V Sync. (音声と映像出力の同期)

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。

- On (遅延時間 : 60 ms) : 音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に抑えます。

- Off (遅延時間 : 0 ms) : 音声出力に遅れは発生しません。

ご注意

- 大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。

- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。

- 遅延時間は、音声フォーマット、サウンドフィールド、スピーカーパターン、スピーカーまでの距離などの設定によって変わることがあります。

■ Auto Volume

本機は、入力信号やつないだ機器から出力されるコンテンツに応じて、音量を自動で調整できます。

例えば、テレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときに便利です。

- On

- Off

ご注意

- Auto Volume 機能をオン／オフするときは、必ず事前に音量を下げてください。

- この機能は、ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、またはAAC信号が入力されたときのみ働くため、他のフォーマットに切り換えると、音声が急に大きくなることがあります。

- 以下の場合、この機能は働きません。

- サンプリング周波数が48kHzより大きいリニアPCM信号を受信している。

- Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-HD Master Audio またはDTS-HD High Resolution Audio信号を受信している。

■ Dual Mono (デジタル放送の言語選択)

デジタル放送で二重音声が視聴可能な場合に、お好みの言語を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC 音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

- **Main/Sub** : フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声が同時に出力されます。
- **Main** : 主音声が出力されます。
- **Sub** : 副音声が出力されます。

■ D.Range Comp. (ダイナミックレンジの圧縮)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音源にのみ働きます。

- **On** : ダイナミックレンジはレコーディングエンジニアが意図したとおりに圧縮されます。
- **Auto** : ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- **Off** : ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

HDMI 設定 (HDMI Settings)

HDMI 端子につないだ機器に必要な設定を調節することができます。

■ Control for HDMI

HDMI 機器制御機能のオン／オフを切り換えることができます。詳しくは、「“ブラビアリンク”機能」(46 ページ) をご覧ください。

- **On**
- **Off**

ご注意

- 「Control for HDMI」を「On」に設定すると、「HDMI Audio Out」が自動的に変わります。
- 本機がスタンバイモードで、「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン／スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。

■ Pass Through

本機がスタンバイ状態でも HDMI 信号をテレビに出力できるようにします。

- **On** : 本機がスタンバイ状態でも、本機の HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号が 出力され続けます。
- **Auto** : 本機がスタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号が 出力されます。“ブラビアリンク”対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定がおすすめです。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意

この設定は、「Control for HDMI」が「On」に設定されているときのみ働きます。

- **Off** : スタンバイ状態時には本機は HDMI 信号を出力しません。つないだ機器のソースをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意

「Auto」設定時は、「On」に設定した場合よりも、映像と音声がテレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。

■ HDMI Audio Out

本機と HDMI 接続した再生機器からの HDMI 音声信号を設定できます。

- **AMP** : 再生機器からの HDMI 音声信号は本機につないだスピーカーにのみ出力されます。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。

ご注意

「HDMI Audio Out」が「AMP」に設定されているときは、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。

- **TV+AMP**：音声を本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

ご注意

- 再生機器の音質は、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの音質によります。テレビにステレオスピーカーがある場合は、マルチチャンネル音源を再生するときでも、本機からもテレビと同じステレオで音声が 출력されます。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、「AMP」に設定してください。

■ HDMI Sound Field

デジタル放送のテレビ番組を視聴するときに、オートジャンルセレクターを設定できます。詳しくは、「オートジャンルセレクター」(49 ページ) をご覧ください。

■ Subwoofer Level

PCM 信号が HDMI 接続で入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを 0 dB または +10 dB に設定できます。HDMI 入力端子に個別に割り当てられている各入力のレベルを設定できます。

- **Auto**：オーディオストリームに応じて、レベルを 0 dB または +10 dB に自動で設定します。
- **+10 dB**
- **0 dB**

■ Fast View

Fast View の操作を設定できます。

- **Auto**：通常よりも HDMI 入力を素早く選べます。
- **Off**：Fast View と PREVIEW (HDMI) 機能が無効です。

ご注意

「Off」を選択すると、入力切換から画像が 出るまでの時間がかかるようになりますが、 選択しない HDMI 入力の信号を受けなくなるため、音質的に有利になります。

入力設定 (Input Settings)

本機と他機器の接続に関わる設定を調節できます。

■ Input Mode

機器をデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方にないでいるとき、音声入力モードを固定できます。詳しくは、「デジタル音声とアナログ音声を切り換える (INPUT MODE)」(51 ページ) をご覧ください。

■ Input Edit

各入力について以下の項目を設定できます。

- **Watch**：入力が Watch メニューに表示されます。
- **Listen**：入力が Listen メニューに表示されます。
- **Watch+Listen**：入力が Watch メニューと Listen メニューの両方に表示されます。

■ Audio Input Assign

各入力に割り当てられた音声入力端子を設定できます。

詳しくは、「他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)」(52 ページ) をご覧ください。

■ Name In

各入力に最大 8 文字で名前を入力し、表示させることができます。

端子ではなく、接続機器名が表示されるように登録しておくと便利です。

- 1 「Name In」を選んで、④を押す。
 - 2 名前をつけたい入力を選んで、④を押す。
 - 3 ↑/↓ をくり返し押して文字を選び、④を押す。
 - 4 ←/→ を押して、入力位置を前後に移動できます。
 - 5 手順3をくり返して一文字ずつ入力し、④を押す。
- 入力した名前が登録されます。

システム設定 (System Settings)

本機の設定を調節できます。

■ Language

画面のメッセージに使用する言語を選擇します。

- English : 英語
- French : フランス語
- German : ドイツ語
- Spanish : スペイン語

■ Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機が自動的にスタンバイ状態に切り換わるように設定することができます。

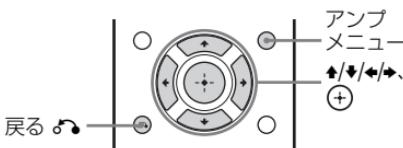
- On : 約 30 分後にスタンバイ状態に切り替えます。
- Off : スタンバイ状態に切り替えません。

ご注意

- この機能は、「FM」または「AM」入力が選択されているときは働きません。
- オートスタンバイ機能とスリーブタイマーが同時に設定されている場合は、スリーブタイマーが優先されます。

OSD を使わずに操作する

テレビが本機につながっていないくても、表示窓の表示を見ながら本機を操作できます。



表示窓のメニューを使う

- 1 アンプメニューを押す。
本機の表示窓にメニューが表示されます。
- 2 ↑/↓ をくり返し押して、好みのメニューを選び、④または④を押す。
- 3 ↑/↓ をくり返し押して、調整したいパラメーターを選び、④または④を押す。
- 4 ↑/↓ をくり返し押して、好みの設定を選び、④を押す。

前の表示に戻るには

←または戻る ⏪ を押す。

メニューを閉じるには

アンプメニューを押す。

ご注意

パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、あるいは固定／変更できないことを意味します。

設定メニュー一覧

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。メニューからの手順について詳しくは、55ページをご覧ください。

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
自動音場補正設定 [<AUTO CAL>]	自動音場補正開始 [A.CAL START] 自動音場補正の種類 ^{a)} [CAL TYPE]	FULL FLAT、ENGINEER、 FRONT REF、OFF
レベル設定 [<LEVEL>]	テストトーン ^{b)} [TEST TONE] フロントスピーカー（左） レベル ^{b)} [FL LEVEL] フロントスピーカー（右） レベル ^{b)} [FR LEVEL] センタースピーカーレベル ^{b)} [CNT LEVEL]	OFF、AUTO ■■■ ^{c)} FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB 単位) FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB 単位) CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドスピーカー（左） レベル ^{b)} [SL LEVEL] サラウンドスピーカー（右） レベル ^{b)} [SR LEVEL] サラウンドバックスピーカー ^{b)} レベル [SB LEVEL]	SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB 単位) SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB 単位) SB -10.0 dB ~ SB +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー（左） レベル ^{b)} [SBL LEVEL] サラウンドバックスピーカー（右） レベル ^{b)} [SBR LEVEL]	SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB 単位) SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	フロントハイスピーカー（左） レベル ^{b)} [LH LEVEL]	LH -10.0 dB ~ LH +10.0 dB (0.5 dB 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	フロントハイスピーカー (右) レベル ^{b)} [RH LEVEL]	RH -10.0 dB ~ RH +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	アクティブサブウーファー レベル ^{b)} [SW LEVEL]	SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB 単位)
スピーカー設定 [<SPEAKER>]	スピーカーパターン [SP PATTERN]	5/2.1 ~ 2/0 (20 とおり)
	フロントスピーカーサイズ ^{b)} [FRT SIZE]	LARGE、SMALL
	センタースピーカーサイズ ^{b)} [CNT SIZE]	LARGE、SMALL
	サラウンドスピーカー サイズ ^{b)} [SUR SIZE]	LARGE、SMALL
	フロントハイスピーカー サイズ ^{b)} [FH SIZE]	LARGE、SMALL
	サラウンドバックスピーカー 割り当て ^{d)} [SB ASSIGN]	SPK B、BI-AMP、OFF
	フロントスピーカー (左) までの距離 ^{b)} [FL DIST.]	FL 1.00 m ~ FL 10.00 m (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントスピーカー (右) までの距離 ^{b)} [FR DIST.]	FR 1.00 m ~ FR 10.00 m (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	センタースピーカーまでの 距離 ^{b)} [CNT DIST.]	CNT 1.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー (左) までの距離 ^{b)} [SL DIST.]	SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー (右) までの距離 ^{b)} [SR DIST.]	SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー までの距離 ^{b)} [SB DIST.]	SB 1.00 m ~ SB 10.00 m (SB 3'3" ~ SB 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー (左) までの距離 ^{b)} [SBL DIST.]	SBL 1.00 m ~ SBL 10.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	サラウンドバックスピーカー (右)までの距離 ^{b)} [SBR DIST.]	SBR 1.00 m ~ SBR 10.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー(左) までの距離 ^{b)} [LH DIST.]	LH 1.00 m ~ LH 10.00 m (LH 3'3" ~ LH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー(右) までの距離 ^{b)} [RH DIST.]	RH 1.00 m ~ RH 10.00 m (RH 3'3" ~ RH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	アクティブサブウーファー までの距離 ^{b)} [SW DIST.]	SW 1.00 m ~ SW 10.00 m (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	距離の単位 [DIST. UNIT]	FEET、METER
	フロントスピーカーのクロス オーバー周波数 ^{e)} [FRONT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	センタースピーカーのクロス オーバー周波数 ^{e)} [CNT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	サラウンドスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [SUR CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	フロントハイスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [FH CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
入力設定 [<INPUT>]	入力モード [INPUT MODE]	AUTO、OPT、COAX、 ANALOG
	入力に名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「Name In」(64 ページ) をご覧ください。
	デジタル音声入力の割り当て [A. ASSIGN]	詳しくは、「他の音声入力端子 を使う (Audio Input Assign)」(52 ページ) をご 覧ください。
サラウンド設定 [<SURROUND>]	エフェクトレベル ^{f)} [HD-D.C.S. TYP]	DYNAMIC、THEATER、 STUDIO
EQ 設定 [<EQ>]	フロントスピーカーの 低域レベル [BASS]	BASS -10 dB ~ BASS +10 dB (1 dB 単位)
	フロントスピーカーの 高域レベル [TREBLE]	TREBLE -10 dB ~ TREBLE +10 dB (1 dB 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
チューナー設定 [<TUNER>]	FM 放送局の受信モード [FM MODE] プリセットした放送局に名前を付ける [NAME IN]	STEREO、MONO 詳しくは、「プリセットした放送局に名前を付ける (Name Input)」(40 ページ) をご覧ください。
音声設定 [<AUDIO>]	ナイトモード [NIGHT MODE] 音声と映像出力の同期 [AV SYNC] 音量の自動詳細設定 [AUTO VOL] デジタル放送の言語選択 [DUAL MONO] ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]	NIGHT ON、NIGHT OFF SYNC ON、SYNC OFF A. VOL ON、A. VOL OFF MAIN/SUB、MAIN、SUB COMP. ON、COMP. AUTO、 COMP. OFF
HDMI 設定 [<HDMI>]	HDMI 機器制御 [CTRL: HDMI] Pass Through [PASS THRU] HDMI 音声出力 [AUDIO OUT] HDMI サウンドフィールド [SOUND.FIELD] HDMI アクティブサブ ウーファーのレベル [SW LEVEL] ファストビュー [FAST VIEW]	CTRL ON、CTRL OFF ON、AUTO、OFF AMP、TV+AMP AUTO、MANUAL SW AUTO、SW +10 dB、 SW 0 dB AUTO、OFF
システム設定 [<SYSTEM>]	オートスタンバイモード [AUTO STBY] バージョン [VER. X.XXX] ^{g)}	STBY ON、STBY OFF

- a)自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選ぶことができます。
 b)スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。
 c)■■■にはスピーカーチャンネルがります (FL, FR, CNT, SL, SR, SB, SBL, SBR, LH, RH, SW)。
 d)サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの「Speaker Pattern」に設定していないときは、このパラメーターのみを選べます。
 e)スピーカーが「SMALL」に設定されているときは、このパラメーターのみ選べます。
 f)サウンドフィールドを「HD-D.C.S.」にしているときは、このパラメーターのみ選べます。
 g)X.XXXにはソフトウェアのバージョンナンバーがります。

表示窓で情報を確認するには

表示窓で、サウンドフィールドなど本機のさまざまな設定内容を確認できます。

- 1 情報を確認したい入力を選ぶ。
- 2 アンプを押したあと、画面表示をくり返し押す。

画面表示ボタンを押すたびに表示が次のように切りわります。

入力のインデックス名¹⁾ → 選んだ入力 → 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル → ストリーム情報³⁾

FM および AM ラジオを視聴する場合

プリセット放送局名¹⁾ → 周波数
→ 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル

1) インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。

空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

2) ピュアダイレクト機能が働いているときは、「PURE.DIRECT」は表示されません。

3) ストリーム情報は表示されない場合があります。

ご注意

言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

ちょっと一言

本機の DISPLAY からも情報を確認できます。

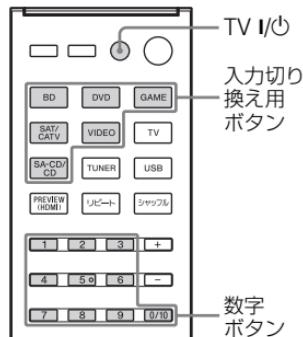
リモコンを使う

入力切り換え用ボタンの割り当てを変更する

お使いの機器に合わせて入力切り換え用ボタンの初期設定を変更することができます。例えば、ブルーレイディスクプレーヤーを本機の SAT/CATV 端子につないだ場合、ブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようにリモコンの SAT/CATV ボタンを設定することができます。

ご注意

TV、TUNER、および USB 入力切り換え用ボタンの割り当ては変更できません。



- 1 割り当てを変更したい入力切り換え用ボタンを押したまま、TV I/O を長押しする。

例：SAT/CATV を押したまま、TV I/O を長押しする。

- 2 TV I/O ボタンを押したまま、選んだ入力切り換え用ボタンをはなす。

例：TV I/O ボタンを押したまま、SAT/CATV をはなす。

3 下記の表を参照し、使いたい機器の種類に対応するボタンを押し、TV I/待機をはなす。

例：1を押して、TV I/待機をはなす。SAT/CATVボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

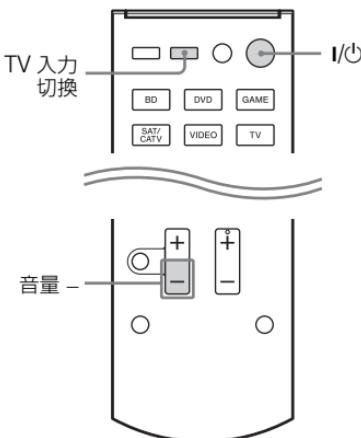
種類	押すボタン
ブルーレイディスク プレーヤー (コマンドモード BD1) ^{a)}	1
ブルーレイディスク レコーダー (コマンドモード BD3) ^{a)}	2
DVD プレーヤー (コマンドモード DVD1)	3
DVD レコーダー (コマンドモード DVD3) ^{b)}	4
ビデオデッキ (コマンドモード VTR3) ^{c)}	5
CD プレーヤー	6

a) BD1 または BD3 の設定について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書を参照してください。

b) ソニー製のDVDレコーダーは DVD1 または DVD3 の設定で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーに付属の取扱説明書を参照してください。

c) ソニー製のビデオデッキは、VHSに対応するVTR3の設定で操作できます。

入力切り替え用ボタンを初期設定に戻す



1 音量 - を押したまま、I/待機を長押しして、TV 入力切換を押す。

2 すべてのボタンをはなす。
入力切り替え用ボタンが初期設定の状態に戻ります。

その他

使用上のご注意

安全について

キャビネットに固い物体が落ちたり、液体がかかったりした場合は、使用を中止し、本体の電源プラグを抜いて保守要員が点検してください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体裏面の銘板に表示されています。
- 本機の電源を切っても、電源コードが壁のコンセントにつながれている間は、電源が完全に遮断されるわけではありません。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

設置場所について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所。
 - じゅうたんや布団の上。
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所。
 - ほこりの多い所。
 - 密閉された所。
 - 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
 - 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入り、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 本機をワックス、オイル、研磨処理など特殊処理を施した台や床面に置く場合は、表面が汚れたり、変色したりする可能性があるため、ご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れについて

キャビネットやパネル面、操作部は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

その他

可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花や高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。

本機についてご質問や問題がある場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

故障かな?と思ったら

本機の使用中に以下の問題が発生した場合は、このトラブルシューティングガイドをご覧になり、問題の改善に役立ててください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

電源

本機の電源が自動的に切れる

- ・「Auto Standby」が「On」に設定されている（65 ページ）。
- ・スリープタイマー機能が働いている（12 ページ）。
- ・「PROTECTOR」が働いている（80 ページ）。

映像

テレビに映像が表示されない

- ・入力切り換え用ボタンで適切な入力を選ぶ。

- ・テレビを適切な入力モードに設定する。
- ・テレビからオーディオ機器を離す。
- ・ケーブルが正しく、しっかりと機器につながっているか確認する。
- ・再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- ・特に解像度が 1080p の映像や Deep Color、4K または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用する。

テレビに 3D 映像が表示されない

- ・テレビまたは映像機器によっては、3D の映像が表示されないことがあります。

テレビに 4K 映像が表示されない

- ・テレビまたは映像機器によっては、4K の映像が表示されないことがあります。お使いの映像機器の性能およびテレビや映像機器の設定を確認する。また、映像機器が、本機の 4K に対応している HDMI IN 端子に接続されているかを確認する。

本機のスタンバイ状態時に、テレビから映像が出ない

- ・本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から映像ができます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、もしくは本機の電源を入れてお好みの HDMI 機器を選択する。
- ・“ブラビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settings メニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（63 ページ）。

テレビ画面に OSD メニューリストが表示されない

- ホームを押して、OSD メニューを表示する。
- テレビが正しくつながっているか確認する。
- テレビによっては、テレビ画面に OSD メニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

表示窓が消灯する

- PURE DIRECT 表示が点灯している場合、PURE DIRECT を押して機能をオフにする（45 ページ）。
- 本機の DIMMER を押して、表示窓の明るさを調節する。

音声

どの機器を選んでも、音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続コードが、本機、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認する。
- 本機とすべての機器の電源が入っているか確認する。
- MASTER VOLUME つまみが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- SPEAKERS が「SPK OFF」に設定されていないか確認する（29 ページ）。
- ヘッドホンが本機につながっていないことを確認する。
- リモコンの消音を押して、消音機能を解除する。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押すか、本体の INPUT SELECTOR つまみを回して、お好みの機器を選ぶ（31 ページ）。

- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」を「TV+AMP」に設定する（63 ページ）。マルチチャンネル音声のソースを再生できない場合は、「AMP」に設定する。ただし、この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが切り替えられたときに、音声が途切れる場合があります。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランクやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも 3 メートル離れているか確認する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンを PHONES 端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンから 1 チャンネルのみが出力される場合は、機器が本機に正しくつながっていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのコードが正しくつながれていることを確認する。
- ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーが本機に正しくつながっていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認する。
- アナログ機器の左右両方の端子に接続しているか確認する。アナログ機器は左右両方の端子に接続する必要があります。音声コード（別売）を使う。

- スピーカーのレベルを調節する(60ページ)。
- Speaker Settings メニューの「Auto Calibration」または「Speaker Pattern」を使って、スピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speaker Settings メニューの「Test Tone」を使って、各スピーカーから正しく音が 出力されているか確認する。
- ドルビーデジタルサラウンド EX の情報を持たないディスクがあります。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認する。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。
- 選んだサウンドフィールドによつては、アクティブサブウーファーから音が出ないことがあります。
- すべてのスピーカーが「Large」に設定されていて、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ません。

特定の機器から音が出ない

- 選んだ機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- 接続に使用されているコードが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認する。
- 「INPUT MODE」を確認する(51ページ)。
- 選んだ機器が、対応する HDMI 端子に正しく接続されているか確認する。
- HDMI 接続でスーパーオーディオ CD を聞くことはできません。
- 再生機器によっては、機器側で HDMI 設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を 参照してください。

- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color、4K または 3D の 映像を視聴するときは、必ずハイ スピード HDMI ケーブルを使用する。
- HDMI 端子から伝送された音声信号(フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など)はつないだ機器によって制限されることがあります。HDMI ケーブルでつなないだ機器からの映像が明瞭でなかつたり、音声が出なかつたりする場合は、つないだ機器の設定を確認する。
- つないだ機器が著作権保護技術(HDCP)に対応していない場合、本機の HDMI TV OUT 端子から の映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認する。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、 Dolby TrueHD) を楽しむには、再生機器の映像解像度を 720p/1080i より高く設定する。
- マルチチャンネルリニア PCM を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、 HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」の設定を下記のように設定する。
 - テレビのスピーカーと本機から 音を聞きたい場合は、「TV+AMP」
 - 本機から音を聞きたい場合は、「AMP」

- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」を「AMP」に設定する（63 ページ）。
- 本機でテレビ入力が選ばれているのに、本機につないだ機器の音声が聞こえない場合
 - HDMI 接続で本機につないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず本機の入力を HDMI に変更する。
 - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り換える。
 - テレビにつないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を選ぶ。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 「Analog Direct」が使われていないか確認する。
- HDMI 機器制御機能を使用している場合、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
 - つないだ機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。各機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
 - 本機の入力を機器に接続した HDMI 入力に切り換える。
 - 選んだデジタル音声入力端子の割り当てが他の入力に変更されていないか確認する（52 ページ）。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認する。
- Speaker Settings メニューで音声レベルパラメーターを調整する。

ドルビーデジタル、DTS または AAC マルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中の DVD などが、ドルビーデジタルまたは DTS 形式で録音されているか確認する。
- DVD プレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認する。
- HDMI Settings メニューで「HDMI Audio Out」を「AMP」に設定する（63 ページ）。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、 Dolby TrueHD)、マルチチャンネルリニア PCM は、HDMI 接続でのみお楽しみいただけます。

サウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるか確認する（40 ページ）。
- サンプリング周波数が 48 kHz より大きい DTS-HD Master Audio、 DTS-HD High Resolution Audio、または Dolby TrueHD を受信している場合は、サウンドフィールドが働きません。

スピーカーからテストトーンが出力されない

- スピーカーコードが確実につながっていない可能性があります。スピーカーコードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につなぐ。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが 出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っている。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正確に一致していることを確認する。

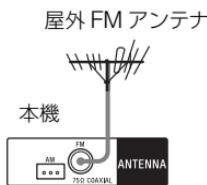
本機のスタンバイ状態時に、テレビから音声が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から音声が出ます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、もしくは本機の電源を入れてお好みの HDMI 機器を選択する。
- “ブルビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settings メニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（63 ページ）。

チューナー

FM 放送の受信状態が悪い

- 75 Ω 同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外 FM アンテナをつなぐ。



放送局が受信できない

- アンテナがしっかりとつながれているか確認する。アンテナを調節したり、必要に応じて外部アンテナを使う。
- 自動受信で受信状態が悪い（放送局の信号が弱い）。ダイレクト選局を使う。
- プリセットされた放送局がない、またはプリセットした放送局を消去してしまった（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセットする（39 ページ）。

- アンプを押してから、リモコンの画面表示をくり返し押して、表示窓に周波数を表示させる。

iPod/iPhone

音声が歪む

- リモコンの音量 - をくり返し押す。
- iPod/iPhone の「EQ」設定を「Off」または「Flat」にする。

iPod/iPhone から音が出ない

- iPod/iPhone を取りはずして、もう一度つなぐ。

iPod/iPhone を充電できない

- 本機の電源が入っているか確認する。
- iPod/iPhone が確実につながっているか確認する。

iPod/iPhone を操作できない

- iPod/iPhone が保護ケースに入ったままになっていないか確認する。
- iPod/iPhone のコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。
- iPod/iPhone を取りはずして、もう一度つなぐ。
- 本機が対応していない iPod/iPhone を使用している。対応機器については、「対応 iPod/iPhone モデル」（32 ページ）をご覧ください。

iPhone の呼び出し音の音量を変更できない

- iPhone を直接操作して呼び出し音の音量を調節する。

USB 機器

本機が対応している USB 機器を使用していますか

- 本機が対応していない USB 機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。対応機器については、「対応 USB 機器」(35 ページ) をご覧ください。
 - USB が認識されない。
 - 本機にファイル名またはフォルダ名が表示されない。
 - 再生ができない。
 - 音が飛ぶ。
 - ノイズがある。
 - 歪んだ音声が出力される。

ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声を含んでいる。

USB が認識されない

- 本機の電源を切り、USB 機器を取りはずす。もう一度本機の電源を入れて、USB 機器をつなぎ直す。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ(35 ページ)。
- USB 機器が正しく働いていない。問題の対処方法について、USB 機器の取扱説明書を参照してください。

再生が始まらない

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ(35 ページ)。
- ► を押して、再生を開始する。

USB 機器を ψ (USB) ポートにつなげない

- USB 機器が上下逆につながっている。USB 機器を正しい方向につなぐ。

エラーメッセージが表示される

- USB 機器に保存されているデータが破損している。
- 本機で表示できる文字コードは下記のとおりです。
 - 大文字 (A ~ Z)
 - 小文字 (a ~ z)
 - 数字 (0 ~ 9)
 - 記号 (' = < > * + , - ./ @ [\])
- `)他の文字は正しく表示されないことがあります。

「Reading」が長時間表示される、または再生までに時間がかかる

- 以下の場合は、読み出しに時間がかかることがあります。
 - USB 機器に多くのフォルダーやファイルが保存されている。
 - 非常に複雑なファイル構成になっている。
 - メモリー容量を超えている。
 - 内部メモリーが断片化している。

下記を目安にすることをおすすめします。

- USB 機器の総フォルダーナンバー：256 以下(「ROOT」フォルダーを含む)
- フォルダーごとの総ファイル数：256 以下

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO 形式の MP3 ファイルは再生できません。
- 複数のトラックがある音声ファイルを再生しようとしている。
- AAC ファイルは正しく再生できないことがあります。
- Windows Media Audio Lossless および Professional 形式の WMA ファイルは再生できません。
- FAT16 または FAT32 以外のファイルシステムでフォーマットされた USB 機器には、本機は対応していません。^{*}

- パーティション分割した USB デバイスをお使いの場合は、第 1 パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 8 階層のフォルダーまで再生できます（「ROOT」フォルダー含む）。
- フォルダー数が 256 を超えている（「ROOT」フォルダー含む）。
- フォルダー内のファイル数が 256 を超えている。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

* 本機は FAT16、FAT32 に対応していますが、すべての FAT に対応していない USB 機器もあります。

詳しくは各 USB 機器の取扱説明書を参照するか、製造元にお問い合わせください。

“プラビアリンク”（HDMI 機器制御）

HDMI 機器制御機能が正しく働かない

- HDMI 接続を確認する（21 ページ）。
- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。
- つないだ機器が HDMI 機器制御機能に対応していることを確認する。
- つないだ機器の HDMI 機器制御設定を確認する。つないだ機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- HDMI ケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「“プラビアリンク”の準備をする」（46 ページ）の手順をくり返してください。
- 「Control for HDMI」が「Off」に設定されているときは、機器が HDMI IN 端子に接続されている場合でも、“プラビアリンク”は正しく機能しません。

- “プラビアリンク”で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC 規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダーなど）：3 台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーなど）：3 台まで
 - チューナー関連機器：4 台まで（このうちの 1 台は、本機のメニュー操作に使用します。）
 - オーディオシステム（AV アンプ／ヘッドホン）：1 台まで

オーディオリターンチャンネル（ARC）が働かない

- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。
- TV 入力の「INPUT MODE」が「AUTO」に設定されているか確認する（51 ページ）。

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作する（7 ページ）。
- リモコンと本体の間に障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、新しいものに交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

エラーメッセージ

本機に異常がある場合は、表示窓にメッセージが表示されます。メッセージによって本機の状態を確認できます。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

PROTECTOR

異常な電流がスピーカーに出力されているか、本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。本機の天板をふさいでいるものを取り除き、スピーカーの接続を確認して、もう一度電源を入れる。

USB FAIL

USB (USB) ポートから過電流が検出されました。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。iPod/iPhone または USB 機器を確認して取りはずし、もう一度電源を入れる。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」(58 ページ)、「iPod/iPhone メッセージ一覧」(34 ページ) および「USB メッセージ一覧」(37 ページ) を参照してください。

メモリーを消去する

参照セクション

削除対象	参照ページ
メモリーに保存されたすべての設定	54 ページ
カスタマイズしたサウンド フィールド	45 ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- お保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう 1 度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DH740
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード (6 Ω、JEITA) :
145 W + 145 W

サラウンドモード (6 Ω、JEITA) :

フロント部：145 W + 145 W
センター部：145 W

サラウンド部：145 W + 145 W

サラウンドバック／フロントハイ
部：145 W + 145 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、
サラウンドバック／フロントハイ
部：6 Ω ~ 16 Ω

高調波ひずみ率

0.09% 以下

20 Hz ~ 20 kHz

(6 Ω 負荷)

90 W + 90 W

周波数特性

10 Hz ~ 100 kHz +0.5/-2 dB
(6 Ω 時) (サウンドフィールド、
イコライザ回避時)

入力

アナログ

感度：500 mV/50 kΩ
S/N 比¹⁾：105 dB
(A、500 mV²⁾)

デジタル（同軸）

インピーダンス：75 Ω
S/N 比：100 dB
(A、20 kHz LPF)

デジタル（光）

S/N 比：100 dB
(A、20 kHz LPF)

出力（アナログ）

SUBWOOFER

電圧：2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

± 10 dB、1 dB 単位

¹⁾INPUT SHORT (サウンドフィールド、
イコライザ回避時)

²⁾重み付きネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 90.0 MHz

アンテナ

FM アンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡型

AM チューナー部

受信範囲

531 kHz ~ 1,602 kHz
(9 kHz 間隔)

アンテナ

ループアンテナ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO : 1 Vp-p、75 Ω

iPod/iPhone 部

DC 5 V 1.0 A MAX

USB 部

対応フォーマット *

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :

32 kbps ~ 320 kbps、VBR

WMA :

48 kbps ~ 192 kbps

AAC :

48 kbps ~ 320 kbps

WAV :

8 kHz ~ 48 kHz 16 ビット

PCM

* あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。

転送速度

フルスピード

対応する USB 機器

マスストレージクラス (MSC)

最大電流

500 mA

電源、その他

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

180 W

消費電力（スタンバイ状態時）

0.3 W（「Control for HDMI」および「Pass Through」を「Off」に設定しているとき）

寸法（幅／高さ／奥行き）（約）

430 mm × 156 mm ×
329.4 mm（最大突起部を含む）

質量（約）

8.0 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。



省エネルギー • オートオフ機能搭載

索引

数字

- 2チャンネル 40
- 5.1 チャンネル 16
- 7.1 チャンネル 16

あ行

- エフェクトレベル 68
- オーディオ機器コントロール 50
- オートジャンルセレクター 49
- オートスタンバイ／Auto Standby 65, 69

か行

- 距離の単位／Distance Unit 62, 68
- クロスオーバー周波数 61, 68
- ケーブルテレビチューナー 23, 24
- 高域／Treble 44, 68

さ行

- サウンドフィールド 40
- サラウンド設定 68
- システムオーディオコントロール 48
- システム設定／System Settings 65, 69
- 自動音場補正設定 66
- 自動音場補正の種類／Calibration Type 58, 66
- 自動選局 38
- 消音 31

消去

- サウンドフィールド 45
- メモリー 54
- リモコン 71
- スーパーオーディオ CD プレーヤー 25
- スピーカー設定／Speaker Settings 57, 67
- スピーカーパターン／Speaker Pattern 59, 67
- スリープタイマー 12
- 接続
 - アンテナ 26
 - 映像機器 21
 - オーディオ機器 25
 - スピーカー 18
 - テレビ 20
 - USB 機器 25

た行

- ダイナミックレンジの圧縮 63, 69
- ダイレクト選局 39
- チュナー 38
- チュナー設定 69
- 低域／Bass 44, 68
- デジタル CS チュナー接続 23, 24
- テストトーン／Test Tone 61, 66
- テレビ 20
- テレビリモコンからのメニュー操作 51

な行

二重音声／Dual Mono 63, 69
入力 31

は行

バイアンプ接続 54
ビデオゲーム 24
ビデオディッキ 24
ピュアダイレクト 45
表示窓 8
“プラビアリンク”
　準備する 46
プリセット放送局 39
ブルーレイディスクレコーダー／
プレーヤー 23

ま行

ミュージックモード 42
ムービーモード 41
メッセージ
　エラー 79
自動音場補正 58
iPod/iPhone 34
USB 37
メニュー 55, 66

ら行

リセットする 71
リモコン 11
レベル設定 61, 66

わ行

ワンタッチプレイ 47

A-Z

AAC 15
AM 38
Audio Input Assign 52

Audio Settings 62

Auto Volume 62

A.F.D. モード 40

A/V Sync. 62

Bi-Amp 54

CD プレーヤー 25

DCAC (デジタルシネマ自動音場
補正) 27

Dolby Digital EX 15

DVD レコーダー 24

DVD プレーヤー 23, 24

Easy Setup (かんたん設定) 27

EQ 設定／EQ Settings 44, 62,
68

Fast View 64

FM 38

FM モード／FM Mode 38, 69

HD-D.C.S. 41

HDMI 音声出力／HDMI Audio
Out 63, 69

HDMI 設定／HDMI Settings
63, 69

HDMI 機器制御／Control for
HDMI 63, 69

INPUT MODE 51

Input Settings 64

iPod/iPhone

　充電する 34

　対応モデル 32

Language 65

Manual Setup 60

Name Input 40, 64

OSD (オンスクリーン表示) 30

Pass Through 63, 69

PlayStation®3 23

PROTECTOR 80

SB Assign 60, 67

Settings メニュー 55

USB FAIL 80

USB 機器 35

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル··· 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話··· 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル··· 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話··· 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。



HDMI

